下 水 道 施 設 構 造 等 標 準 図

令和　４　年

亘 理 町　上 下 水 道 課

図 面 目 録

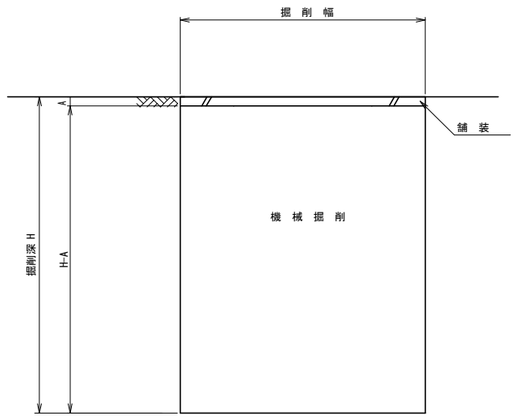
図面番号	図 面 名 称	縮　尺	図面番号	図 面 名 称	縮　尺
	【 開削工法（通常）】			【 開削工法（沈埋）】	
	本管土工標準図・埋設表示シート標準図	1：40		沈埋管路部土工標準図	1：100
	土留工標準構造図	1：40		管路部施工標準図	図　示
	組立式1号マンホール標準構造図	図　示		管路部土工・復旧標準図	1：40
	組立式0号マンホール標準構造図	図　示		人孔部土工標準平面図	1：100
	組立式2号マンホール標準構造図	図　示		1号人孔施工標準図	1：40
	組立式2号マンホール標準構造図	図　示		取付管標準構造図・汚水桝標準構造図	図　示
	組立式3号マンホール標準構造図	図　示			
	組立式特1号（楕円形）マンホール標準構造図	図　示			
	レジンコンクリート製小型マンホール標準図	図　示			
	内副管標準構造図	1：40			
	塩ビ製小型マンホール標準構造図	図　示			
	取付管標準構造図・汚水桝標準構造図	図　示			
	取付管土工標準図	図　示			
	舗装復旧標準図	1：40			

本管土工標準図 ・ 埋設表示シート標準図

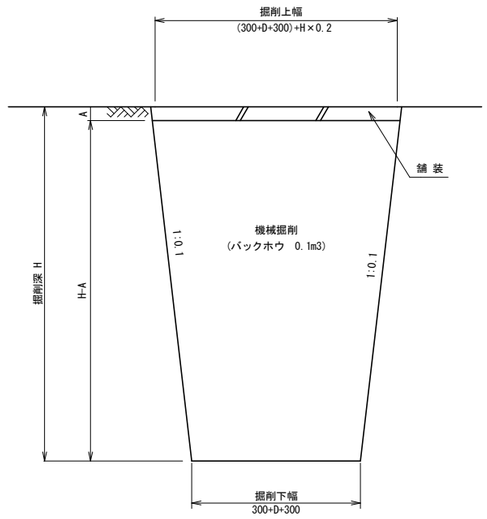
S=1:40

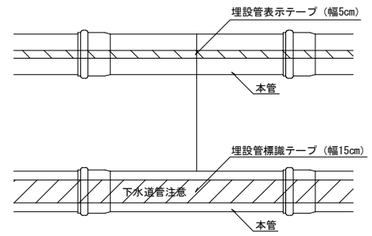
掘 削 工

Ｈ＝１．５ｍ超え（土留工）



Ｈ＝１．５ｍ以下（素掘り）





掘削幅寸法表(mm)

管 種	管 径 (d)	掘 削 深			
		3.0m以下	3.5m以下	4.0m以下	6.0m以下
硬質塩化ビニル管	φ150	900	1050	1150	1400
	φ200	950	1050	1150	1400
リブ付硬質塩化ビニル管	φ150	900	1050	1150	1400
	φ200	1000	1050	1150	1400

（建込簡易土留工）

本管寸法表(硬質塩化ビニル管)(mm)

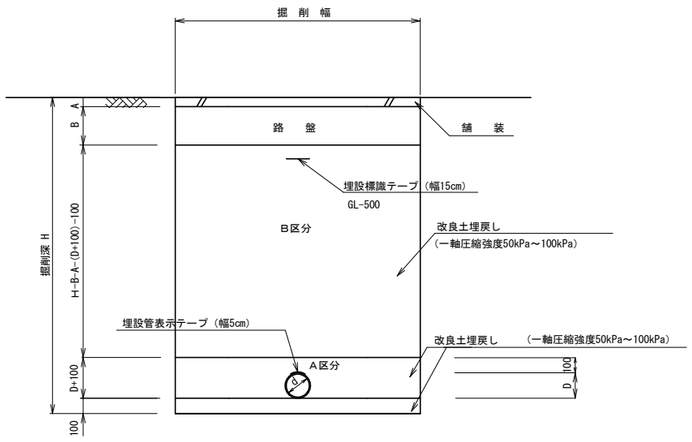
管呼び径(d)	管外径(D)	基礎厚
150	165	100
200	216	100

本管寸法表(リブ付硬質塩化ビニル管)(mm)

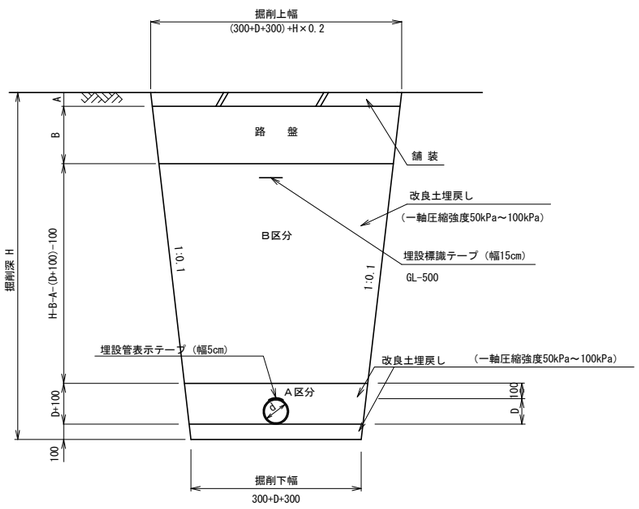
管呼び径(d)	管外径(D)	基礎厚
150	170	100
200	228	100

埋 戻 工

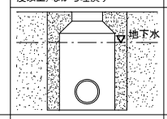
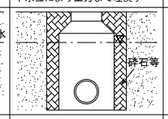
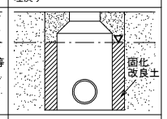
Ｈ＝１．５ｍ超え（土留工）



Ｈ＝１．５ｍ以下（素掘り）



液状化対策の例

埋戻し方法	① 埋戻し土の締固め	② 砕石等による埋戻し	③ 埋戻し土の固化
概要図	良質土で締固め(締固め度90%程度以上)ながら埋戻す	透水性の高い材料(砕石等)で地下水位により上方まで埋戻す	地下水位以深を固化改良土等で埋戻す
			
埋戻し材料	良質な砂又は埋戻しに適した現地発生土	透水性の高い材料（例えば、10%通過粒径(D_{10})が1mm以上の砕石又は排水効果の確認されている材料）	現地発生土又は購入土に固化材を混ぜた改良土
特徴等	十分な締固めを行うことにより、埋戻し部の過剰間隙水圧を小さくすることができるため、液状化に対する効果は大きい	マンホール・管路近傍部の過剰間隙水圧が消散するため、液状化に対する効果は大きい	埋戻し部が非液状化層となるため、液状化に対する効果は大きい

本町では、施工性及び経済性より、③埋戻し土の固化を標準としているが、現場状況に応じて検討を行い、町の下水道担当部署と協議を行うことを原則とする。

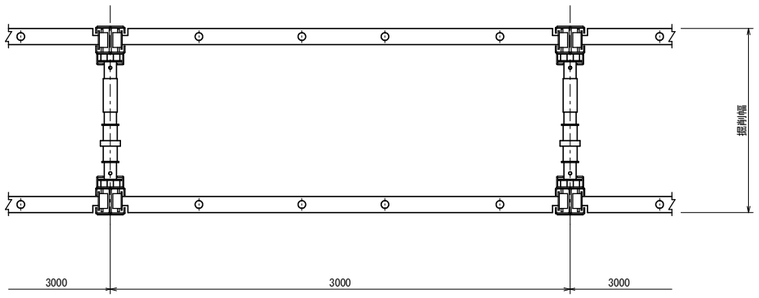
工事名	令和 年度		
(路線名)			
箇 所			
図 名	本管土工標準図 ・ 埋設表示シート標準図		
縮 尺	S=1:40	位 置	
設計者		課 長	
宮城県亘理町		図面番号	

土留工標準構造図

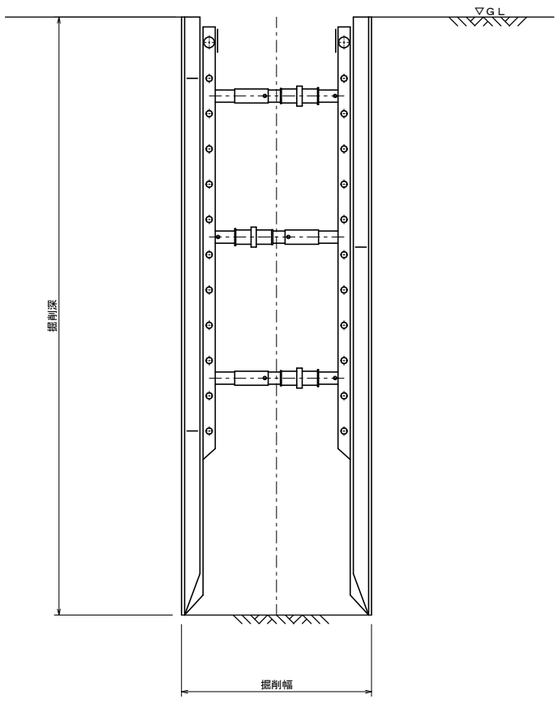
S=1:40

建込み簡易土留工

平面図



断面図



掘削幅寸法表(mm)

管種	管径 (d)	掘削深			
		3.0m以下	3.5m以下	4.0m以下	6.0m以下
硬質塩化ビニル管	φ150	900	1050	1150	1400
	φ200	950	1050	1150	1400
リブ付硬質塩化ビニル管	φ150	900	1050	1150	1400
	φ200	1000	1050	1150	1400

プレート厚寸法表（mm）

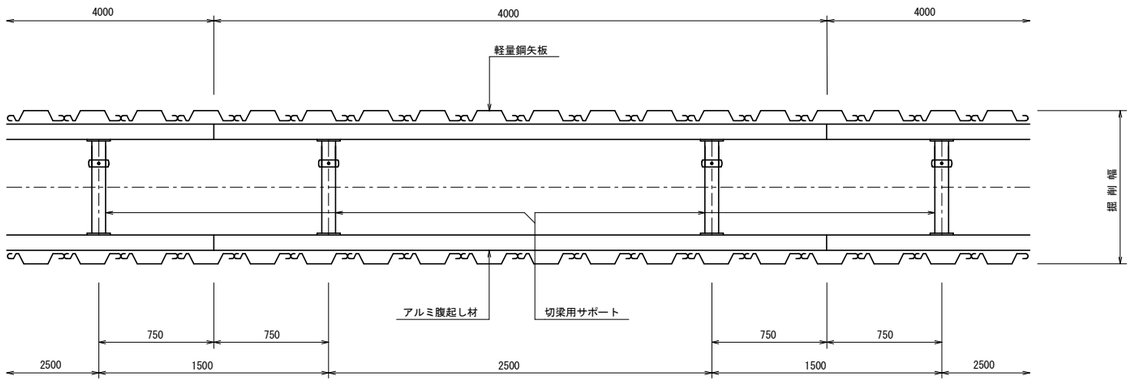
掘削深	3.5m以下	3.5mを超え 6.0m以下
プレート厚 (mm)	65	105

特記事項

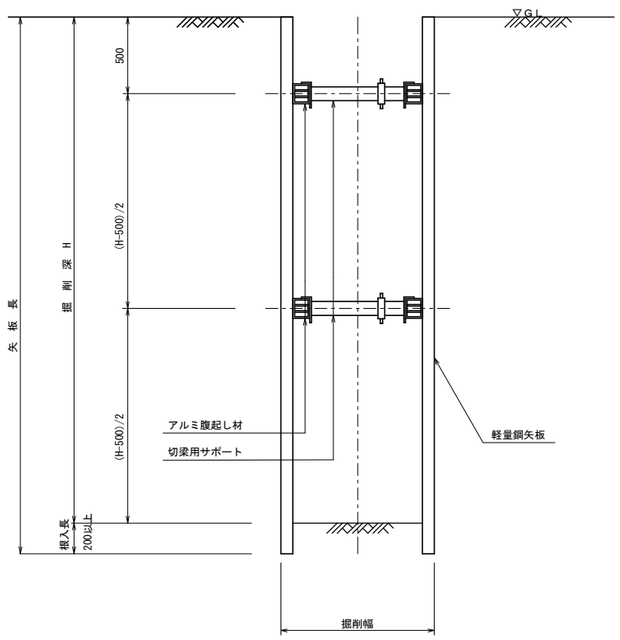
1. 切梁設置位置は工事箇所により計算の上決定すること。

軽量鋼矢板土留工

平面図



断面図

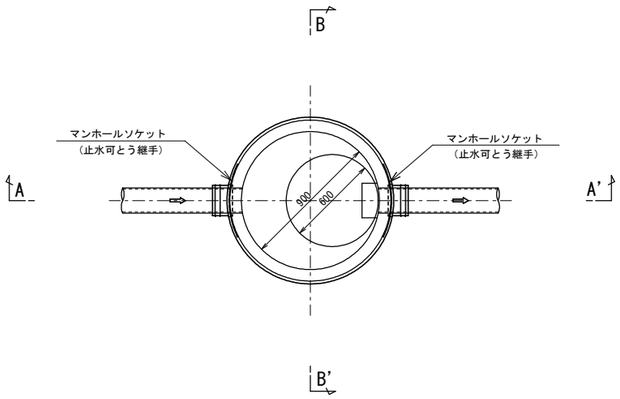


注）支保材は掘削深が2.00m以下は１段、2.00mを超える場合は２段とする。

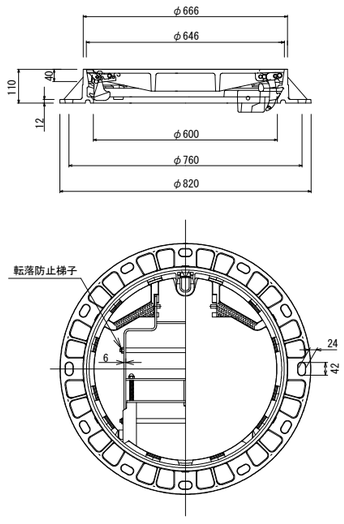
工事名 (路線名)	令和　　年度		
箇所			
図名	土留工標準図		
縮尺	S=1:40	位置	
設計者		課長	
宮城県亘理町		図面番号	

組立式１号マンホール標準構造図

平　面　図
S=1:40



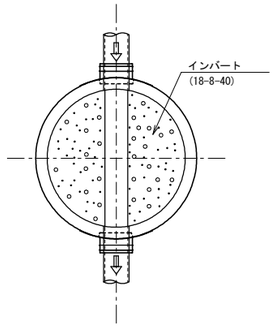
鉄蓋及び蓋受け金物
S=1:20



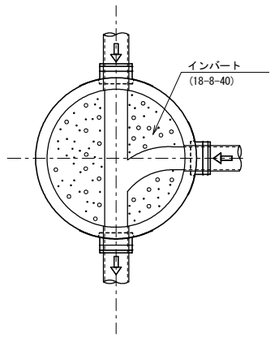
マンホール番号	汚水・雨水	路線番号					設置年度		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
No.○○-○	O	枝	1	－	0	1	R	0	1
No.□□-□	U	幹	1	1	－	1	R	0	1

底　部　工
S=1:40

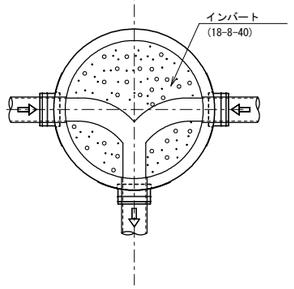
タイプ　A



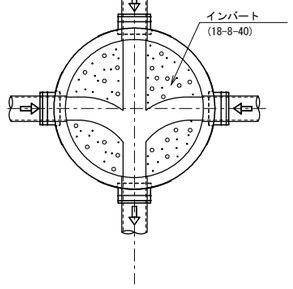
タイプ　B



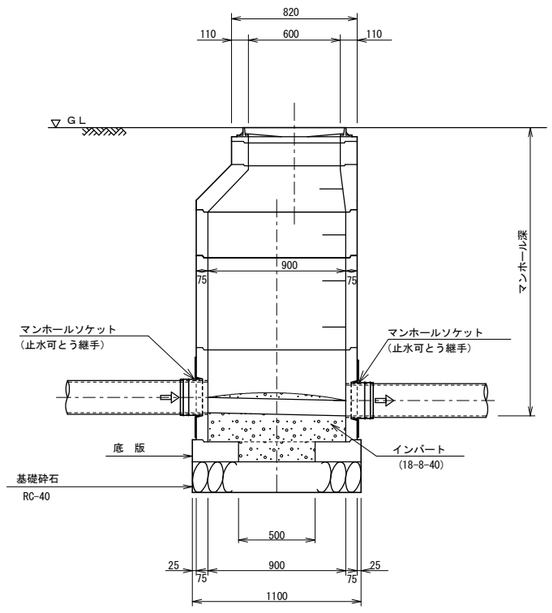
タイプ　C



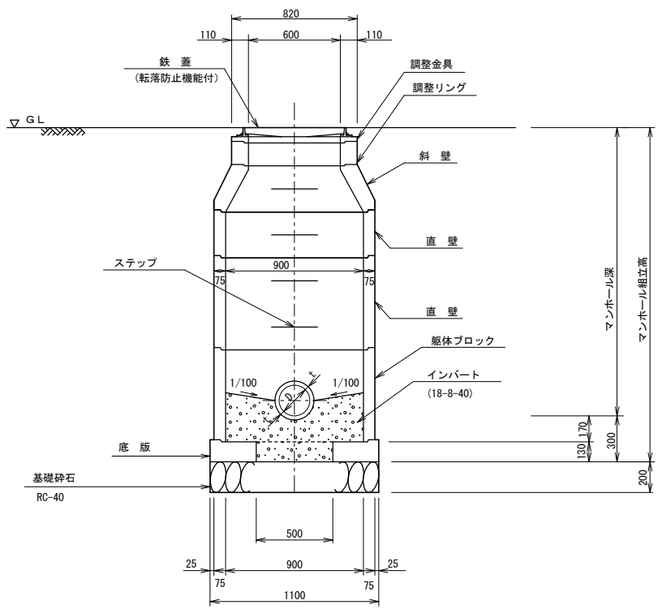
タイプ　D



A－A’ 断 面
S=1:40



B－B’ 断 面
S=1:40



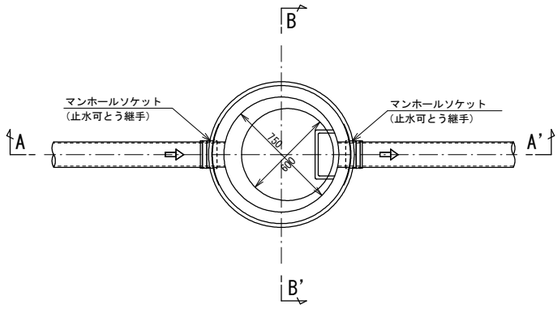
※ステップの位置は原則としてマンホール下流側に取り付ける。
（ただし車道の片側に占用を考えた場合等、状況により歩道側の方へステップを取り付ける。）
※管渠径600mm以下のマンホールの最大間隔は75mとする。
※マンホール深が2m以上の場合、転落防止梯子を設置する。
※鉄蓋は、汚水（O）、雨水（U）、幹線（幹）、枝線（枝）、路線番号、設置年度を明示する。

蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

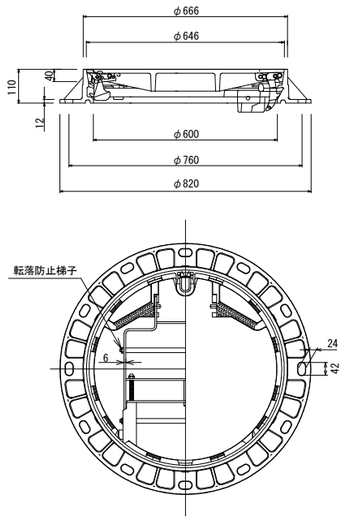
工事名（路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	組立式１号マンホール標準構造図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

組立式０号マンホール標準構造図

平　面　図
S=1:40



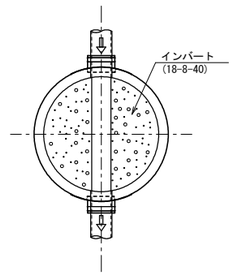
鉄蓋及び蓋受け金物
S=1:20



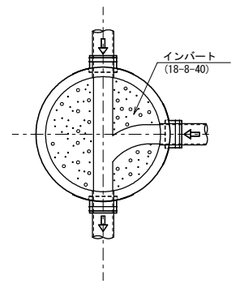
マンホール番号	汚水・雨水	路線番号					設置年度		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
No.○○-○	O	枝	1	—	0	1	R	0	1
No.□□-□	U	幹	1	1	—	1	R	0	1

底　部　工
S=1:40

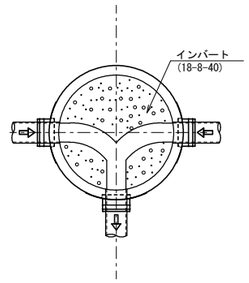
タイプ　A



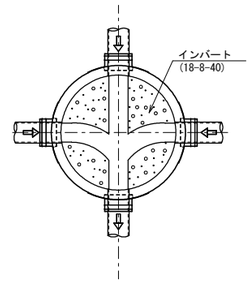
タイプ　B



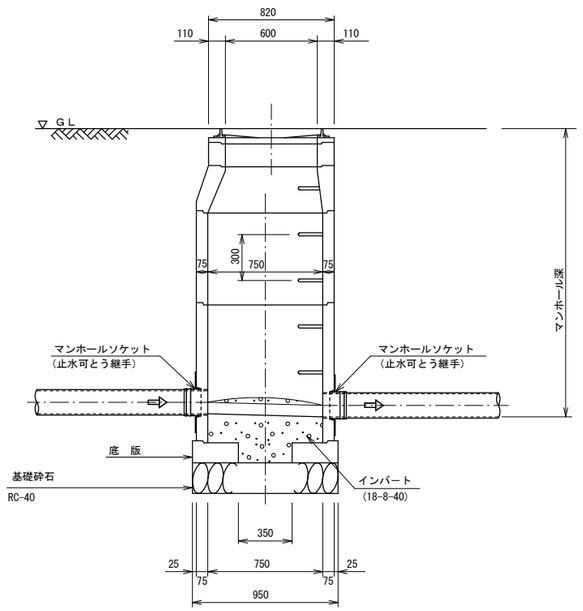
タイプ　C



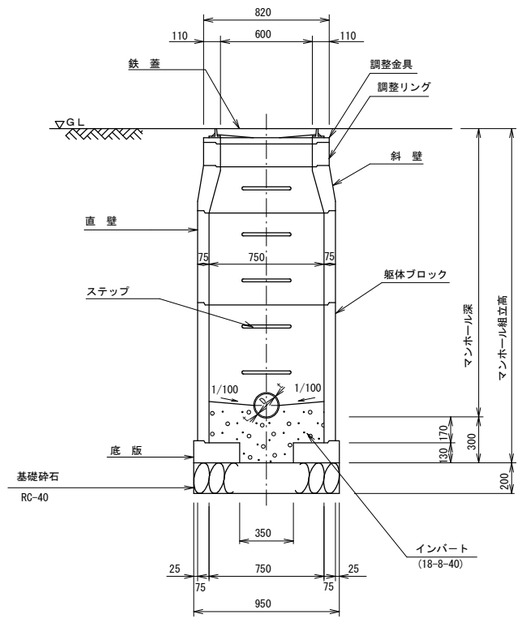
タイプ　D



A－A' 断 面
S=1:40



B－B' 断 面
S=1:40



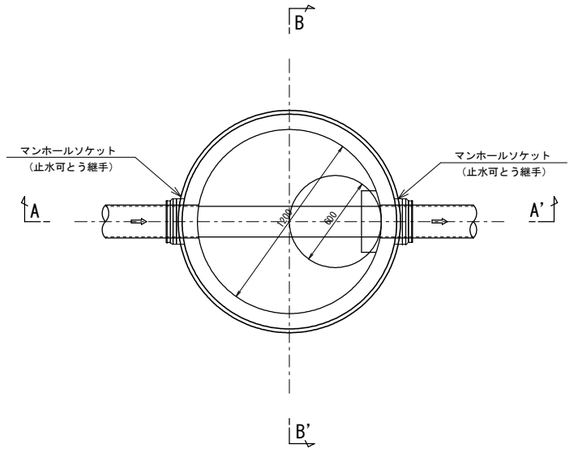
※ステップの位置は原則としてマンホール下流側に取り付ける。
　（ただし車道の片側に占用を考えた場合等、状況により歩道側の方へステップを取り付ける。）
※管渠径600㎜以下のマンホールの最大間隔は75mとする。
※マンホール深が2m以上の場合、転落防止梯子を設置する。
※鉄蓋は、汚水（O）、雨水（U）、幹線（幹）、枝線（枝）、路線番号、設置年度を明示する。

蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

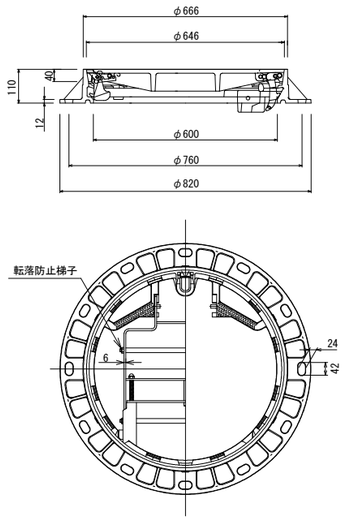
工事名 （路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	組立式０号マンホール標準構造図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

組立式２号マンホール標準構造図

平　面　図
S=1:40



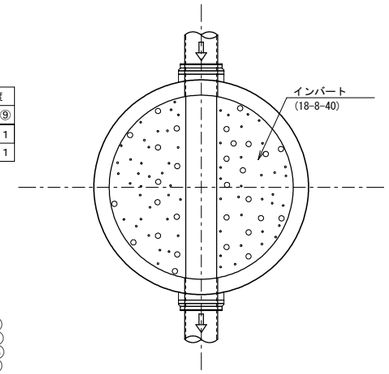
鉄蓋及び蓋受け金物
S=1:20



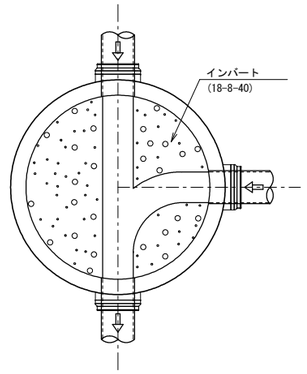
マンホール番号	汚水・雨水	路線番号				設置年度		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
No.○○-○	O	枝	1	—	O	1	R	O	1
No.□□-□	U	幹	1	1	—	1	R	O	1

底　部　工
S=1:40

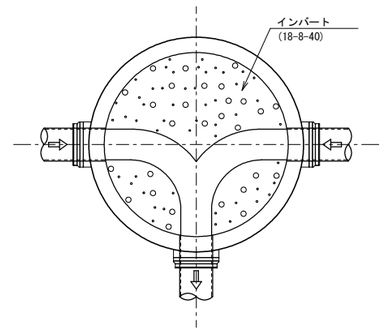
タイプ　A



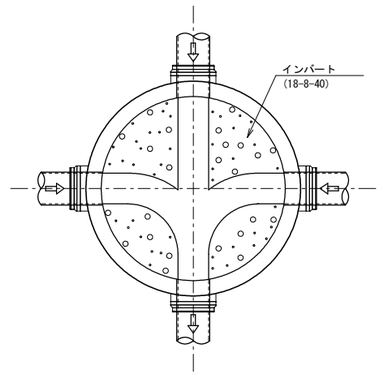
タイプ　B



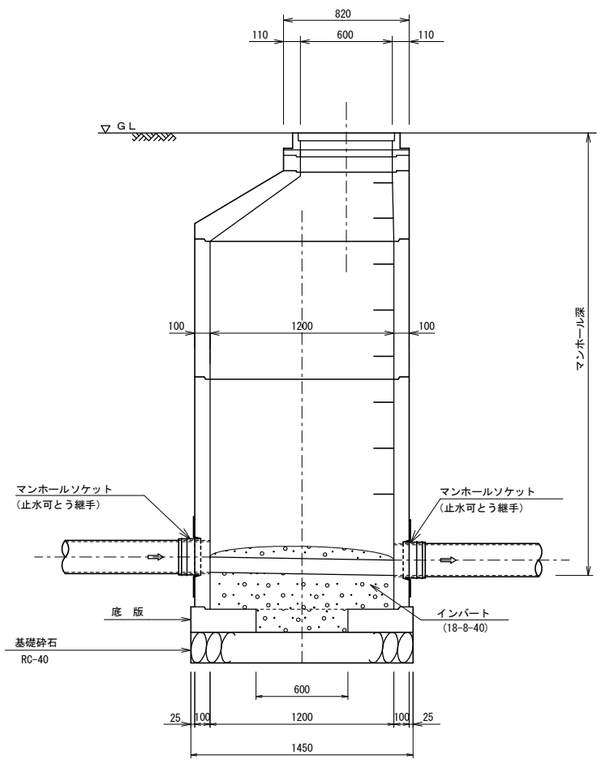
タイプ　C



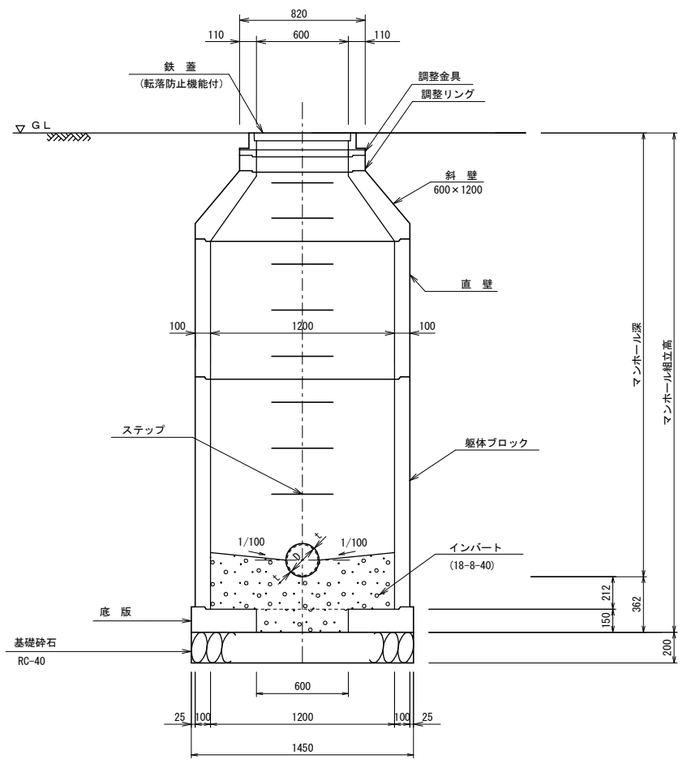
タイプ　D



A－A' 断 面
S=1:40



B－B' 断 面
S=1:40



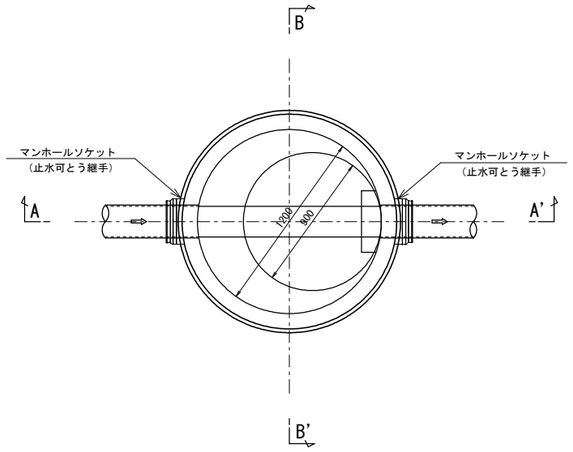
※ステップの位置は原則としてマンホール下流側に取り付ける。
（ただし車道の片側に占用を考えた場合等、状況により歩道側の方へステップを取り付ける。）
※管渠径600mm以下のマンホールの最大間隔は75mとする。
※マンホール深が2m以上の場合、転落防止梯子を設置する。
※鉄蓋は、汚水（O）、雨水（U）、幹線（幹）、枝線（枝）、路線番号、設置年度を明示する。

蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

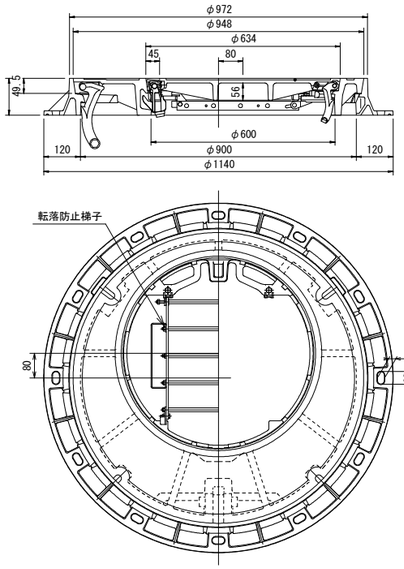
工事名 （路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	組立式２号マンホール標準構造図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

組立式２号マンホール標準構造図

平　面　図
S=1:40



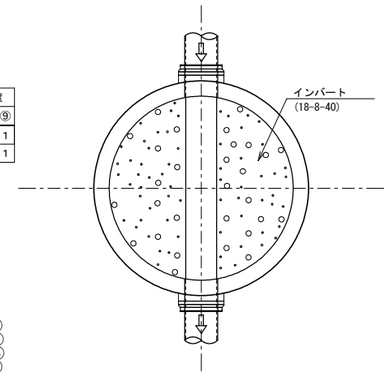
鉄蓋及び蓋受け金物
S=1:20



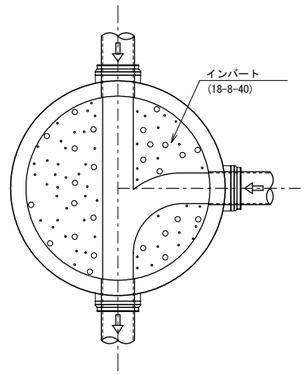
マンホール番号	汚水・雨水	路線番号					設置年度		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
No.○○-○	O	枝	1	—	0	1	R	0	1
No.□□-□	U	幹	1	1	—	1	R	0	1

底　部　工
S=1:40

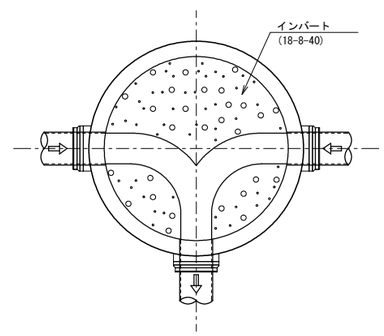
タイプ　A



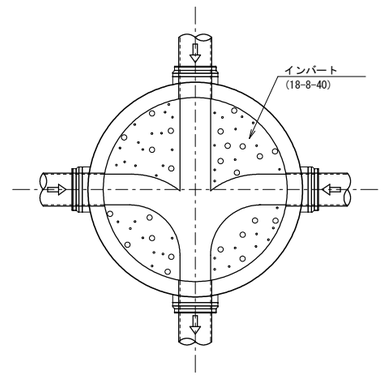
タイプ　B



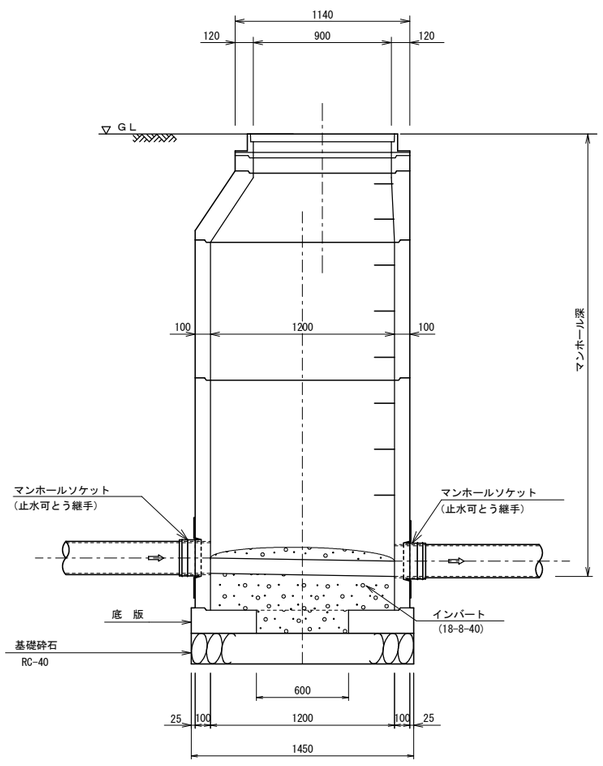
タイプ　C



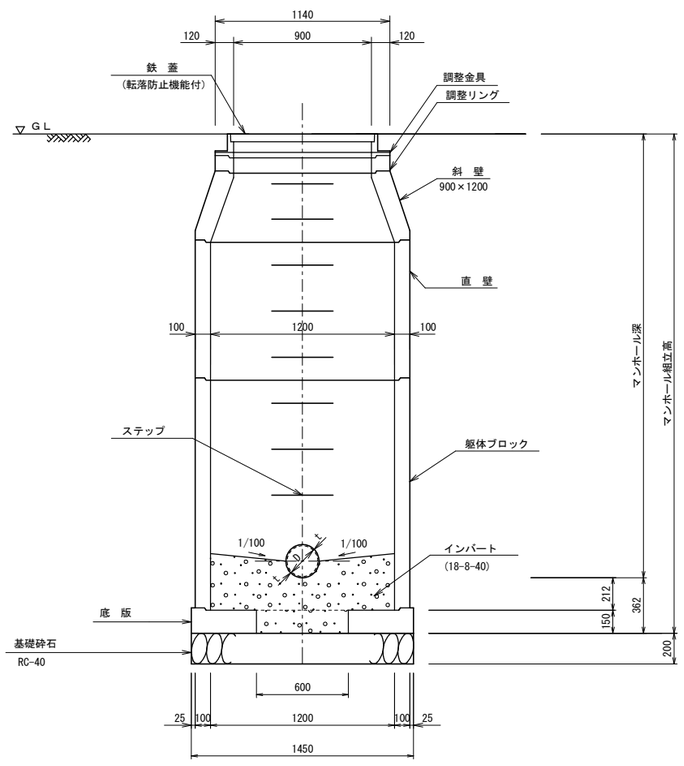
タイプ　D



A－A' 断 面
S=1:40



B－B' 断 面
S=1:40



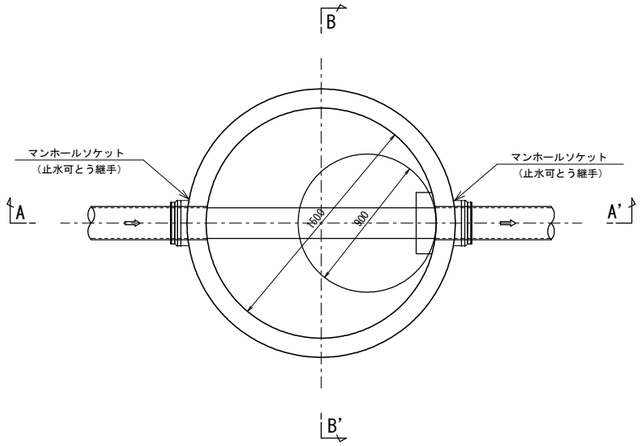
※ステップの位置は原則としてマンホール下流側に取り付ける。
（ただし車道の片側に占用を考えた場合等、状況により歩道側の方へステップを取り付ける。）
※管渠径600mm以下のマンホールの最大間隔は75mとする。
※マンホール深が2m以上の場合、転落防止梯子を設置する。
※鉄蓋は、汚水（O）、雨水（U）、幹線（幹）、枝線（枝）、路線番号、設置年度を明示する。

蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

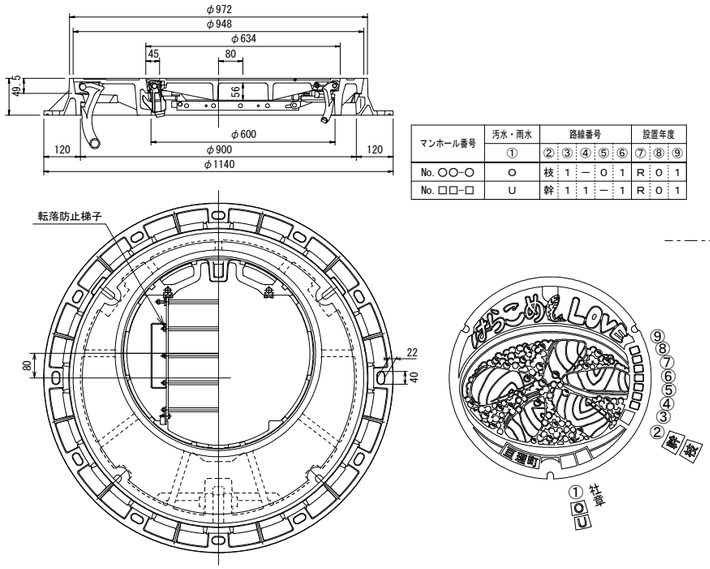
工事名 （路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	組立式２号マンホール標準構造図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

組立式３号マンホール標準構造図

平　面　図
S=1:40



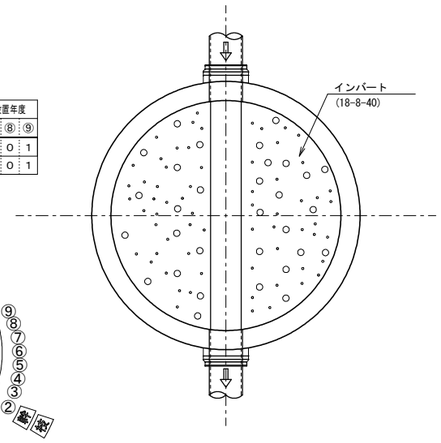
鉄蓋及び蓋受け金物
S=1:20



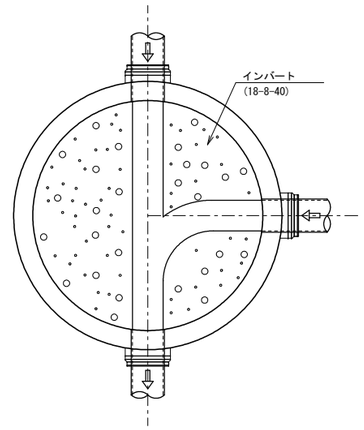
マンホール番号	汚水・雨水	路線番号					設置年度		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
No.○○-○	O	枝	1	－	0	1	R	0	1
No.□□-□	U	幹	1	1	－	1	R	0	1

底　部　工
S=1:40

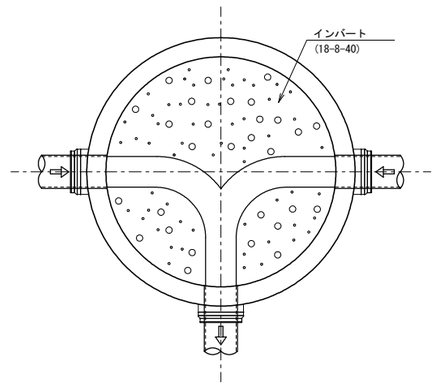
タイプ　A



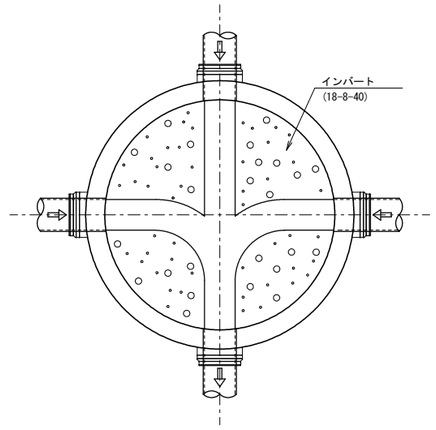
タイプ　B



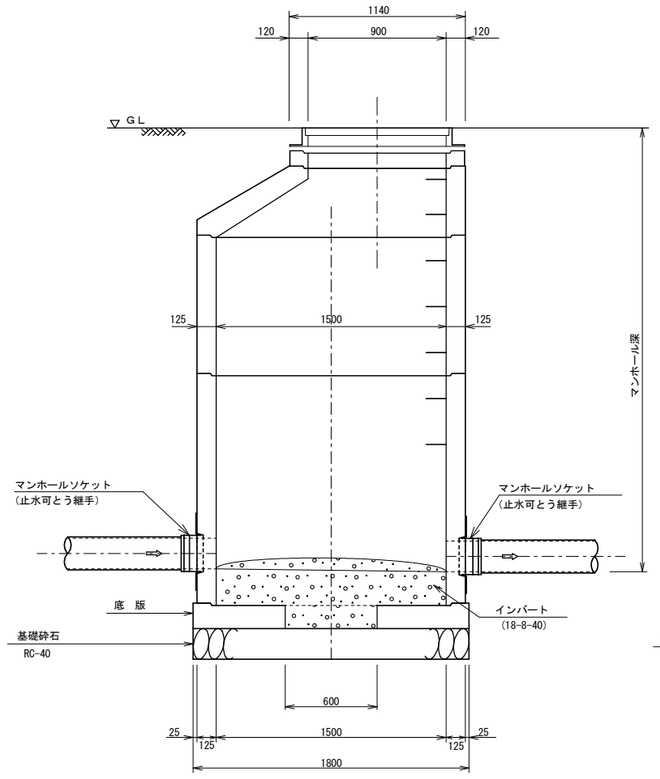
タイプ　C



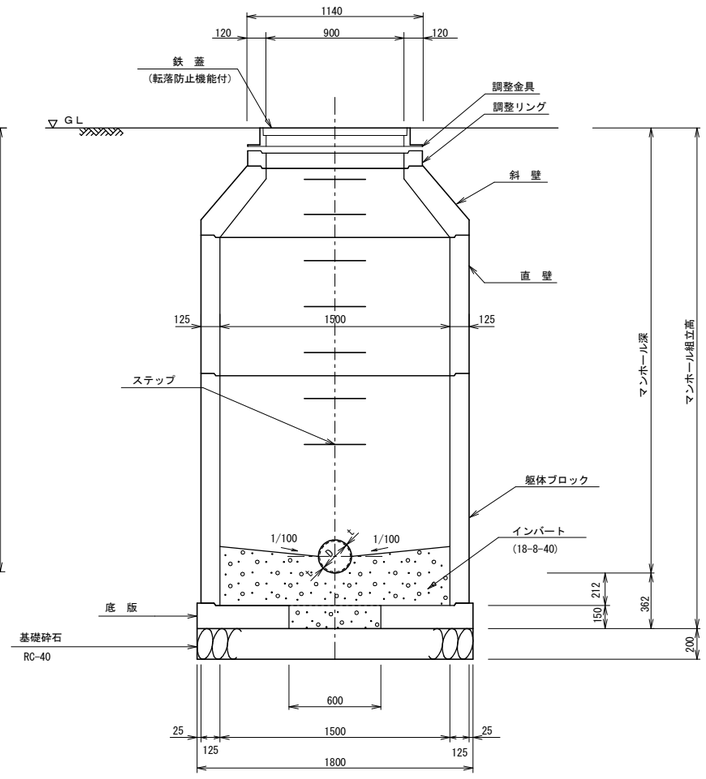
タイプ　D



A－A' 断 面
S=1:40



B－B' 断 面
S=1:40



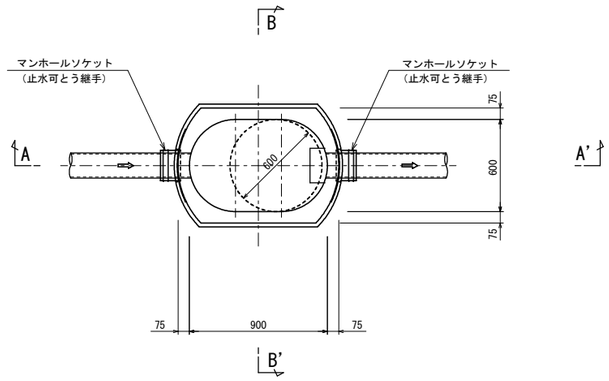
※ステップの位置は原則としてマンホール下流側に取り付ける。
　（ただし車道の片側に占用を考えた場合等、状況により歩道側の方へステップを取り付ける。）
※管渠径600mm以下のマンホールの最大間隔は75mとする。
※マンホール深が2m以上の場合、転落防止梯子を設置する。
※鉄蓋は、汚水（O）、雨水（U）、幹線（幹）、枝線（枝）、路線番号、設置年度を明示する。

蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

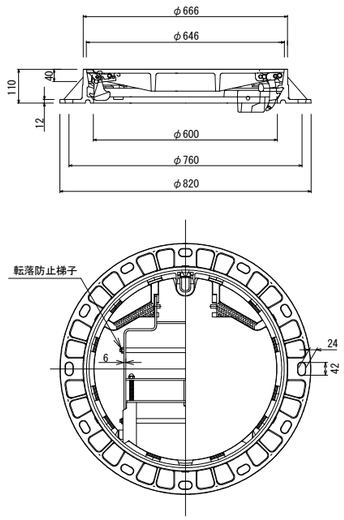
工事名	令和　　年度		
（路線名）			
箇　所			
図　名	組立式３号マンホール標準構造図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

組立式特１号(楕円形)マンホール標準構造図

平　面　図
S=1:40

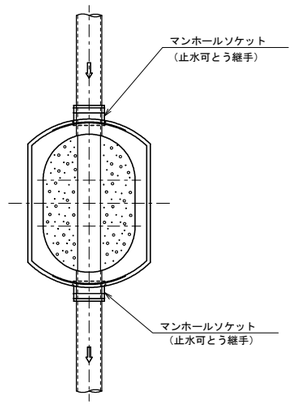


鉄蓋及び蓋受け金物
S=1:20

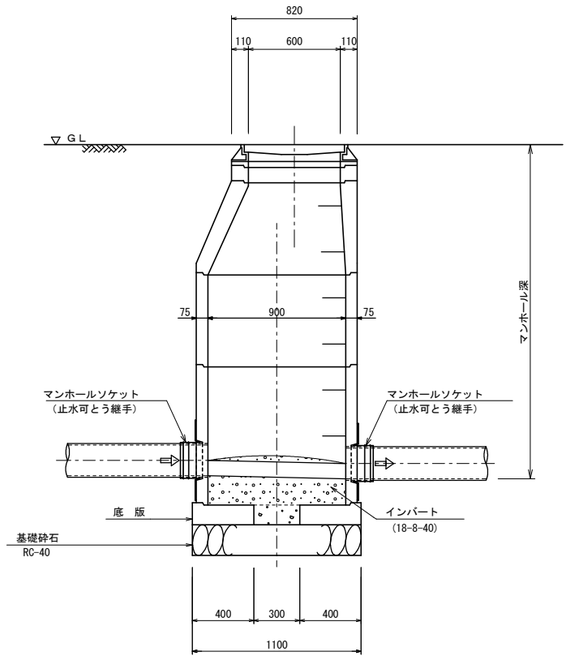


マンホール番号	汚水・雨水	路線番号				設置年度		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
No.○○-○	O	枝	1	－	0	1	R	0	1
No.□□-□	U	幹	1	1	－	1	R	0	1

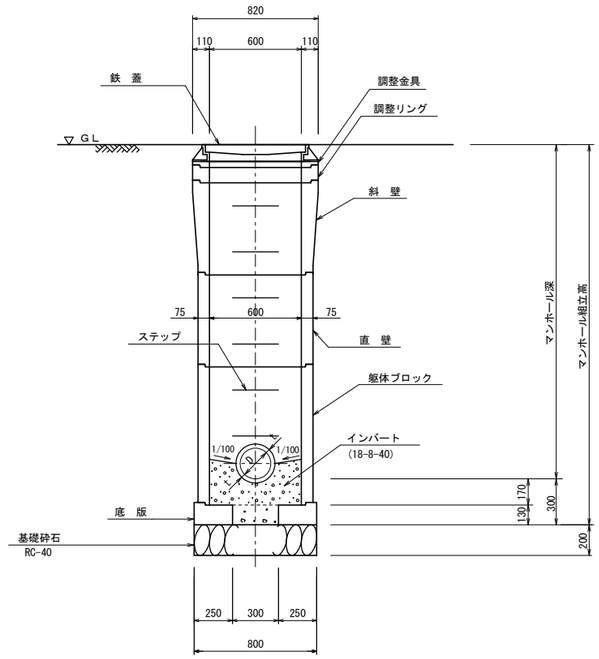
底　部　工
S=1:40



A－A' 断 面
S=1:40



B－B' 断 面
S=1:40



※ステップの位置は原則としてマンホール下流側に取り付ける。
（ただし車道の片側に占用を考えた場合等、状況により歩道側の方へステップを取り付ける。）
※管渠径600mm以下のマンホールの最大間隔は75mとする。
※マンホール深が2m以上の場合、転落防止梯子を設置する。
※鉄蓋は、汚水（O）、雨水（U）、幹線（幹）、枝線（枝）、路線番号、設置年度を明示する。

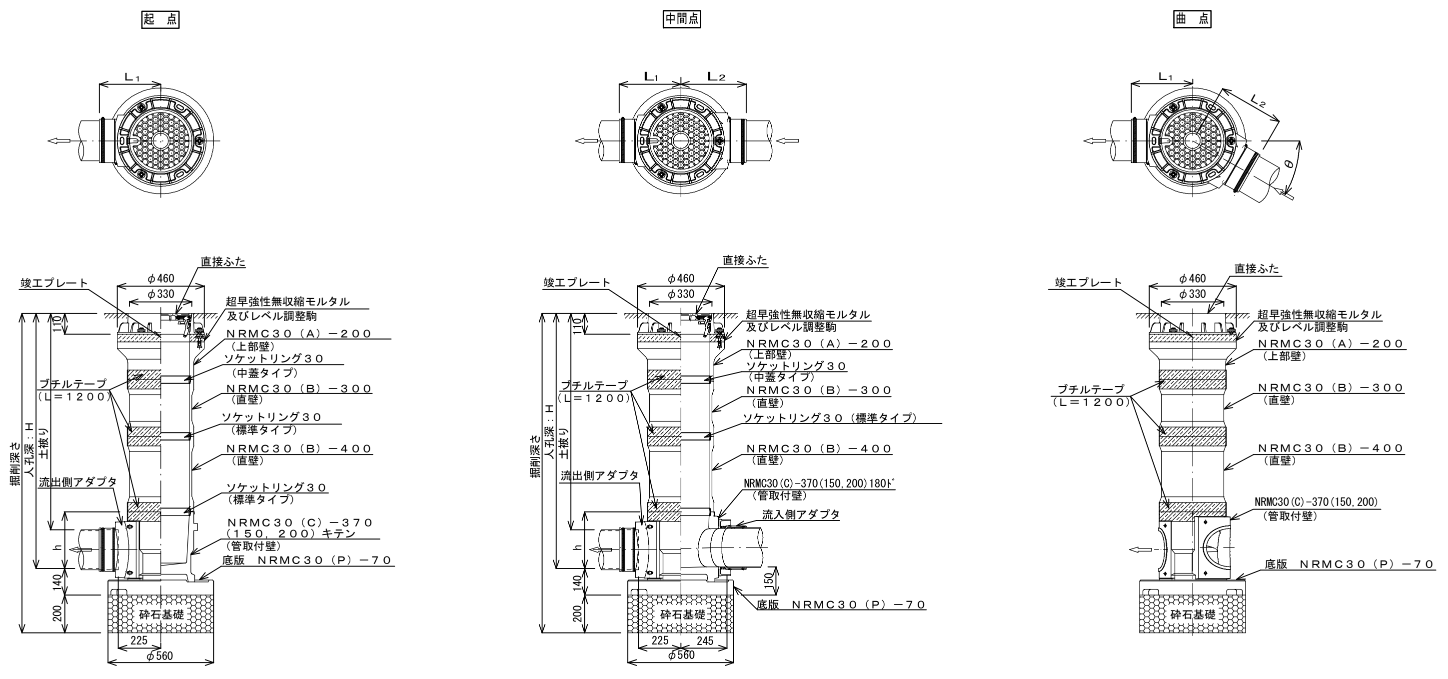
蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

工事名 （路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	組立式特１号(楕円形)マンホール標準構造図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

レジンコンクリート製小型マンホール標準図

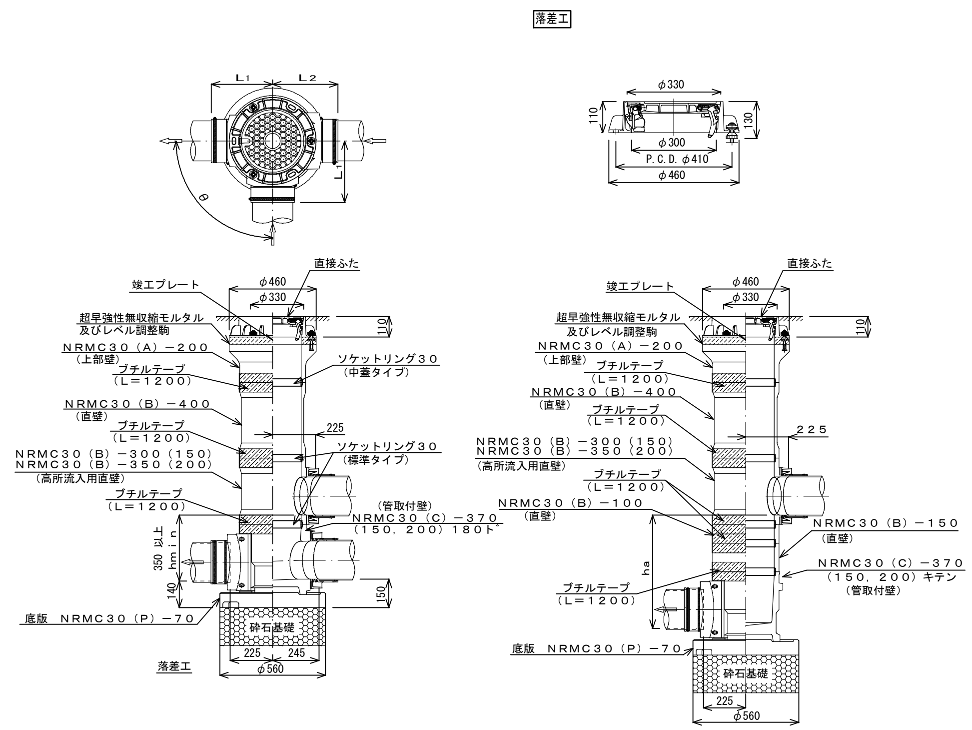
マンホール設置標準図（その１）

S=1:40



マンホール設置標準図（その２）

S=1:40



起点

管路径	管取付壁		
	名　　称	L_1	h
φ150	NRMC30(C)-370(150)ｷﾃﾝ	325	300
φ200	NRMC30(C)-370(200)ｷﾃﾝ	325	300

※ レジンコンクリート製小型マンホール
① 耐震仕様とする。
② 基礎地盤の状況次第では、杭・地盤改良を施工する。
③ 各部材の接合は専用の接合材を使用し、漏水のない様施工する
④ 竣工プレート取付（年・月）
⑤ 鉄ふたは、現況の地盤高・道路勾配に注意して設置する。

※縦断勾配が91‰以上の場合はリブ付自在継手を使用する。

中間点・曲点

管路径	管取付壁				可動角度（θ）
	名　　称	L_1	L_2	h	
φ150	NRMC30(C)−370(150) 90/270ﾄﾞ	325	345	300	90°(270°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(150) 105/255ﾄﾞ	325	345	300	105°(255°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(150) 120/240ﾄﾞ	325	345	300	120°(240°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(150) 135/225ﾄﾞ	325	345	300	135°(225°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(150) 150/210ﾄﾞ	325	345	300	150°(210°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(150) 165/195ﾄﾞ	325	345	300	165°(195°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(150) 180ﾄﾞ	325	345	300	180°±7.5°

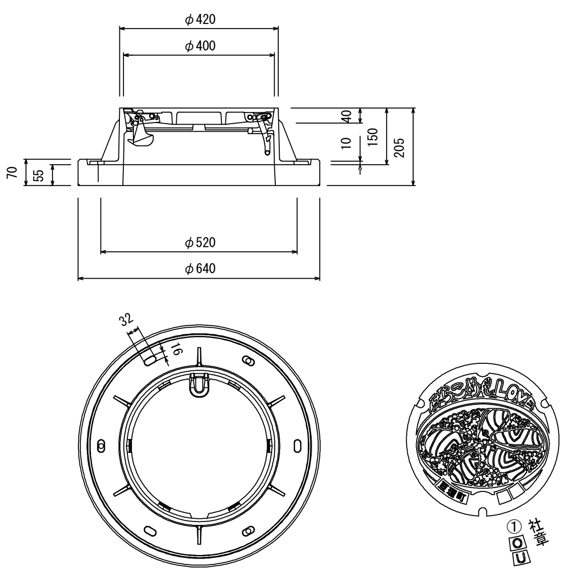
中間点・曲点

管路径	管取付壁				可動角度（θ）
	名　　称	L_1	L_2	h	
φ200	NRMC30(C)−370(200) 90/270ﾄﾞ	325	345	300	90°(270°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(200) 97.5/262.5ﾄﾞ	325	345	300	97.5°(262.5°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(200) 105/255ﾄﾞ	325	345	300	105°(255°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(200) 120/240ﾄﾞ	325	345	300	120°(240°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(200) 135/225ﾄﾞ	325	345	300	135°(225°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(200) 150/210ﾄﾞ	325	345	300	150°(210°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(200) 165/195ﾄﾞ	325	345	300	165°(195°)±7.5°
	NRMC30(C)−370(200) 180ﾄﾞ	325	345	300	180°±7.5°

管路径	高所流入直壁			最小落差	落　差	角　度
	名　　称	L_1	L_2	h_{min}	h_a	（θ）
φ150	NRMC30(B)−300(150)	325	345	350	350+50x (x=0, 1, …)	0°~360°
φ200	NRMC30(B)−350(200)	325	345	350	350+50x (x=0, 1, …)	0°~360°

鉄蓋及び蓋受け金物

S=1:20



※ マンホールの最大間隔は50mとする。
※ マンホール深は1.5m未満とする。
※ 鉄蓋には、汚水（O）・雨水（U）を明示する。

マンホール番号	汚水・雨水
	①
No.○○-○	O
No.□□-□	U

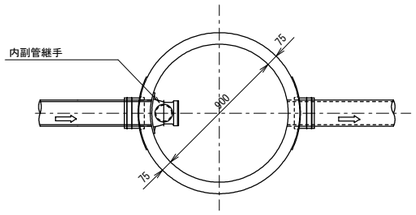
蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

工事名 （路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	レジンコンクリート製小型マンホール標準図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

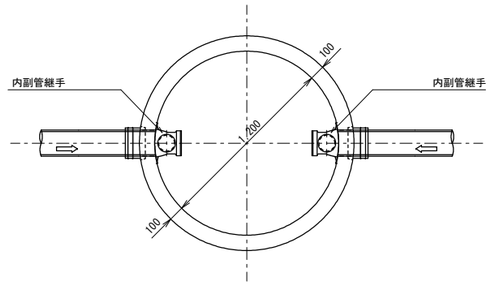
内副管標準構造図

S=1:40

平　面　図
（1号人孔）



平　面　図
（2号人孔）

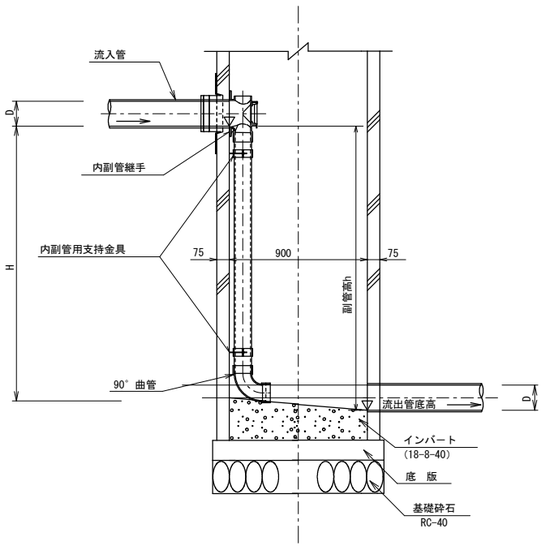


寸 法 表

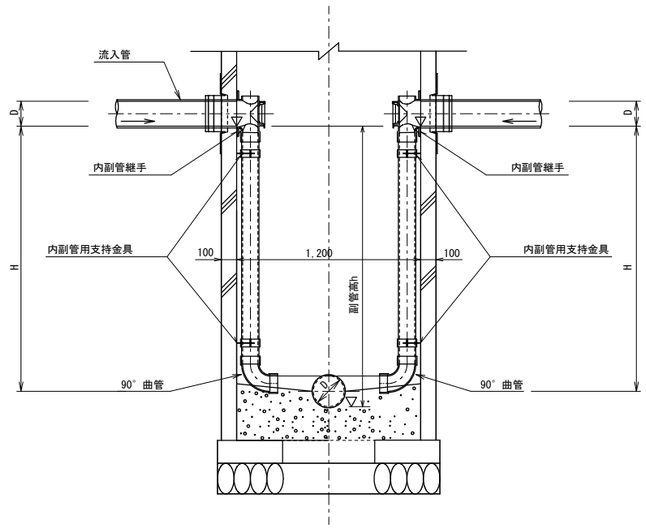
単位：mm

本管径	副管径
φ150	φ100
φ200	φ150
φ250	φ200

断　面　図



断　面　図



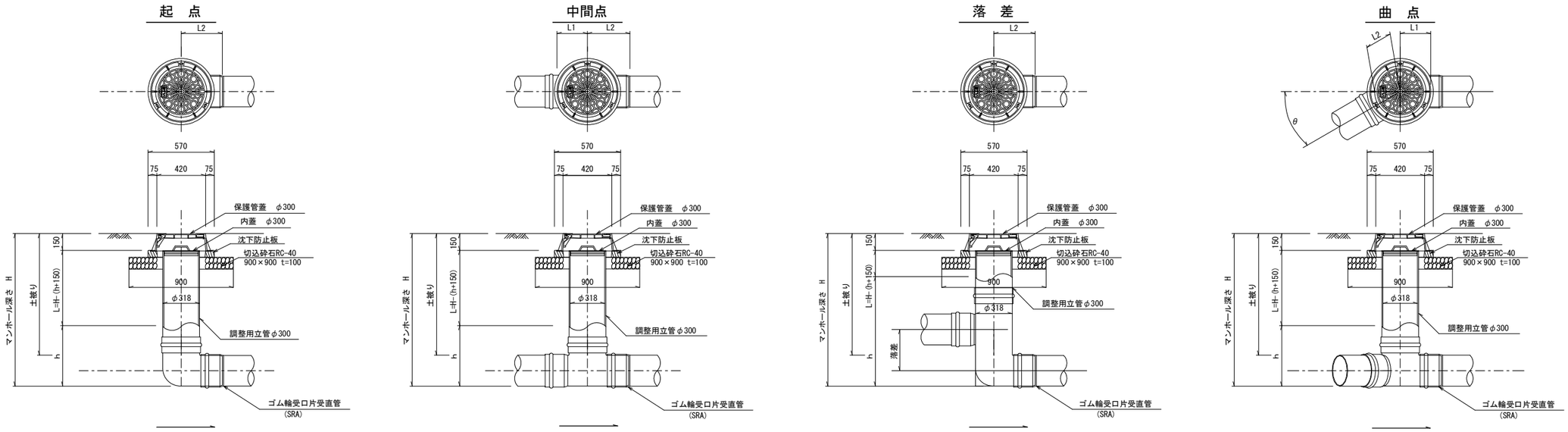
※設置条件＝H=600mm以上

※副管の向き等、上記により難しい場合は下水道担当部署と協議の上決定する

工事名（路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	内副管標準構造図		
縮　尺	S=1:40	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

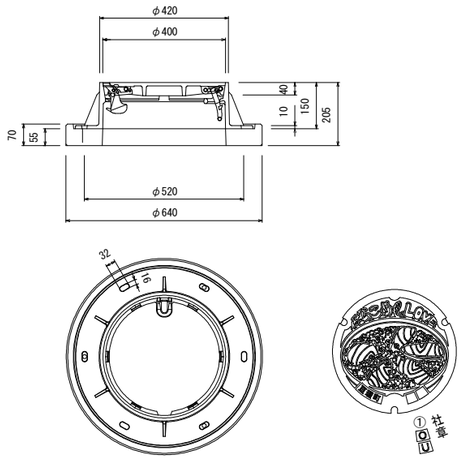
塩ビ製小型マンホール標準構造図

S=1:40



鉄蓋及び蓋受け金物

S=1:20



※ マンホールの最大間隔は50mとする。
※ マンホール深は1.5m未満とする。
※ 鉄蓋には、汚水（O）・雨水（U）を明示する。

マンホール番号	汚水・雨水 ①
No.○○-○	O
No.□□-□	U

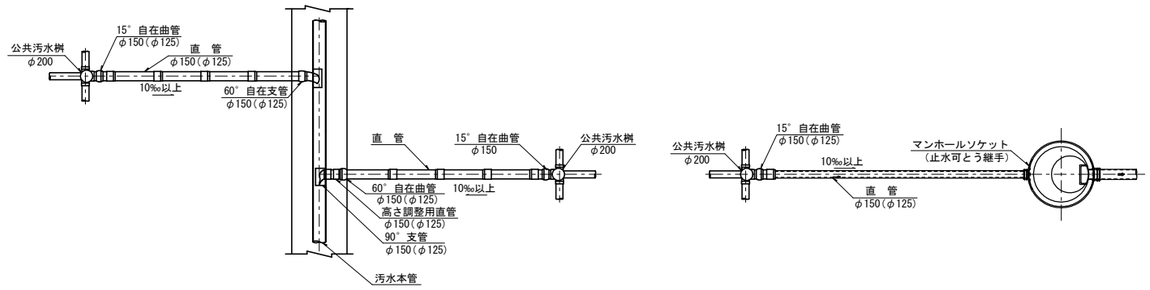
蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

工事名（路線名）	令和　　年度		
箇所			
図名	塩ビ製小型マンホール標準構造図		
縮尺	図示	位置	
設計者		課長	
宮城県亘理町		図面番号	

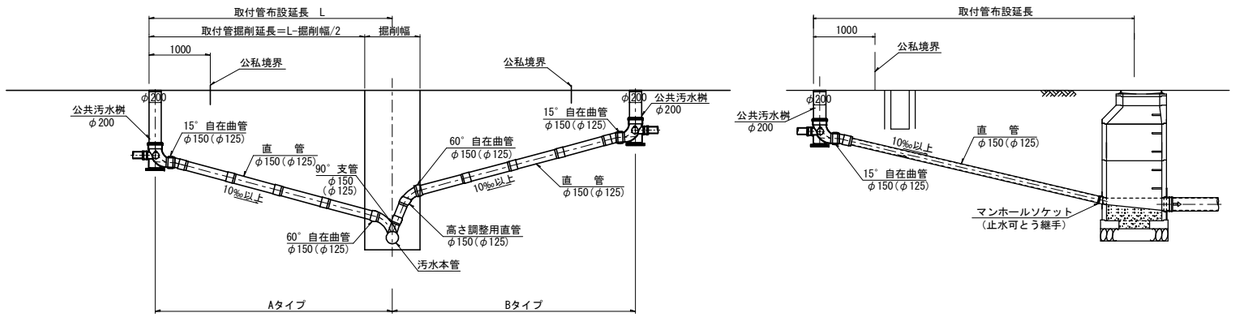
取付管標準構造図

S=1:100

平 面 図



断 面 図



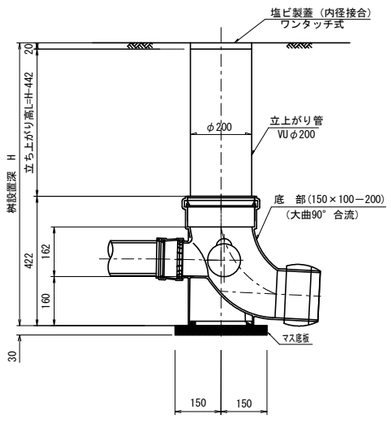
※ 汚水本管がφ150mmの場合、取付管径φ125mmとする。

特記１：支管と支管との間隔は1m以上とする。
特記２：公共汚水桝設置位置は、公私境界から民地側に公共汚水桝を含めて1m以内とする。
特記３：末端管きょにおける最上流部の取付管は、マンホール直接接続とする。
特記４：取付管と既存地下埋設物との横断離隔は、原則30cm以上とする。
特記５：上記により難い場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

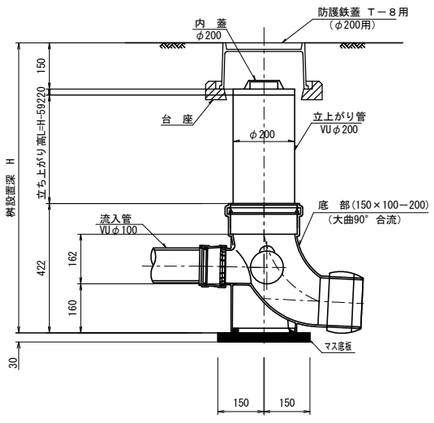
汚水桝標準構造図

S=1:20

宅 内 部

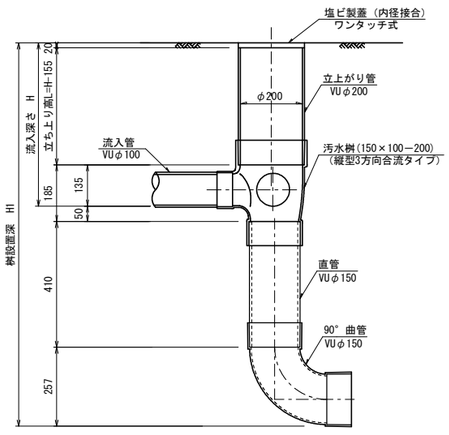


車 道 部

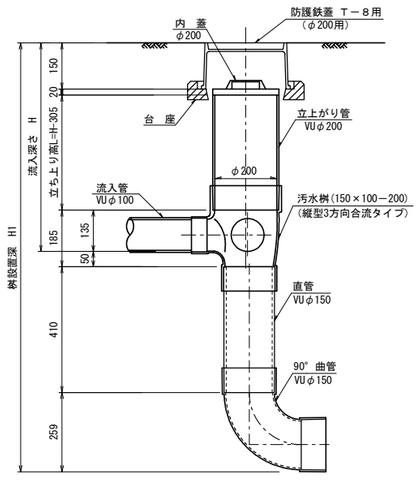


※ 現場状況に応じ、公共汚水桝の横型と縦型を適切に選定する。
※ 亘理町指定の蓋を設置する。
※ 疑義が生じた場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

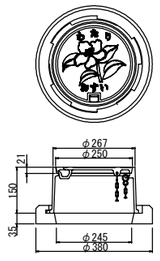
宅 内 部



車 道 部

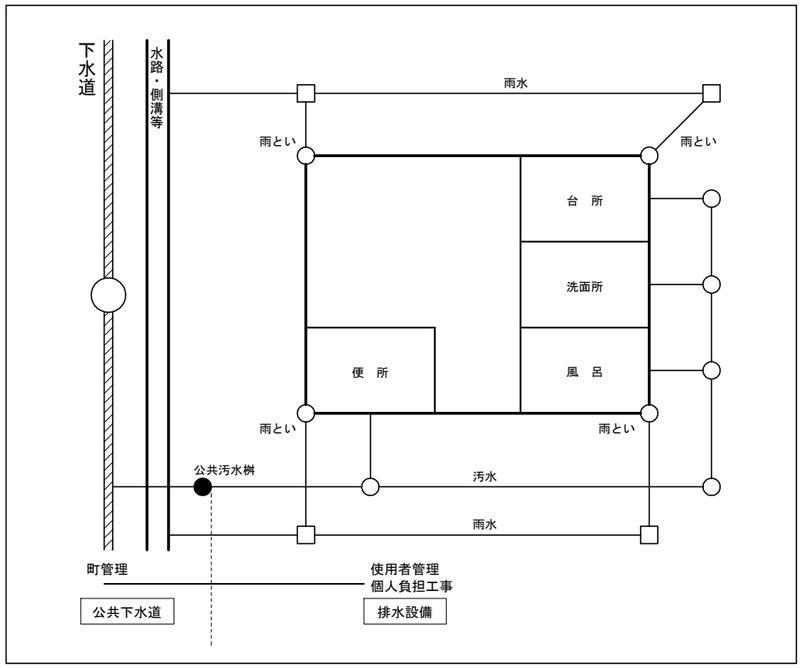


防護鉄蓋



塩ビ製蓋

宅内排水設備平面図



特記１：宅内排水設備の設置・構造は、『下水道施設計画・設計指針と解説（（公社）日本下水協会）』、
『下水道排水設備指針と解説（（公社）日本下水道協会』および『亘理町下水道条例施行規則』の最新版に準拠する。
特記２：汚水ますは原則として2cm程度の落差を設ける。
特記３：便所からの排水管は、排水主管のますに鋭角に合流するように接続し、必要に応じて段差を設け主管側への汚物等の逆流を防止する。
特記４：宅内排水設備（汚水）の最小土被りは20cmとする。
特記５：宅内排水設備（汚水）管径は内径100mmを原則とする。
特記６：宅内排水設備（汚水）勾配は20‰を原則とする。
特記７：宅内排水設備ます（汚水）は、排水管の延長が、その管径の120倍を超えない範囲内において排水管の維持管理上適切な箇所に設置する。
（排水管径が100mmの場合は、『100mm×120＝12,000mm＝12m』となる。）
特記８：雨水ますの底部には、深さ15cm以上の泥だめを設ける。
特記９：上記により難い場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

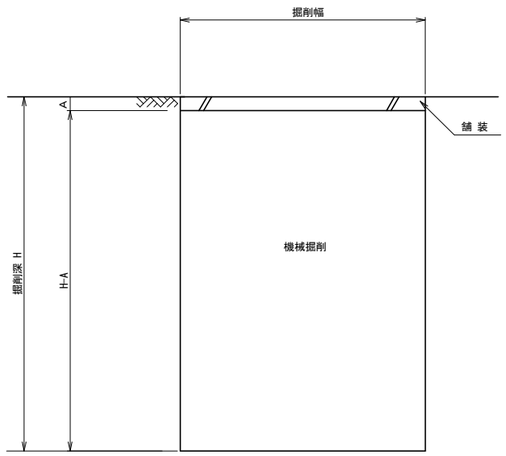
工事名	令和　　年度		
（路線名）			
箇　所			
図　名	取付管標準構造図・汚水桝標準構造図		
縮　尺	図　示	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

取付管土工標準図

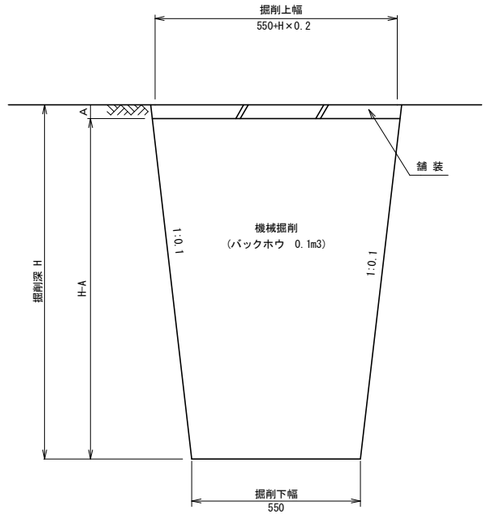
掘 削 工

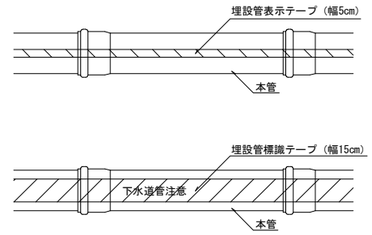
S=1:20

Ｈ＝１．５ｍ超え（土留工）



Ｈ＝１．５ｍ以下（素掘り）





掘削幅寸法表(mm)

管 種	管 径 (d)	掘削深 2.5m以下
硬質塩化ビニル管	φ100	850
	φ125	900
	φ150	900

取付管寸法表(硬質塩化ビニル管)(mm)

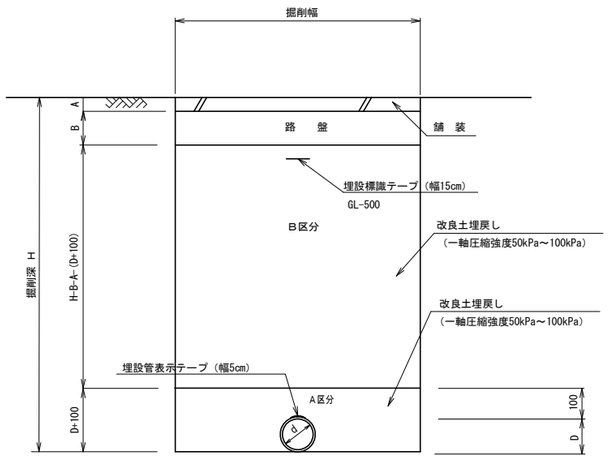
管呼び径(d)	管外径(D)
100	114
125	140
150	165

※本管径φ200以上の場合、取付管径φ150mm
※本管径φ150の場合、取付管径φ125mmとする。

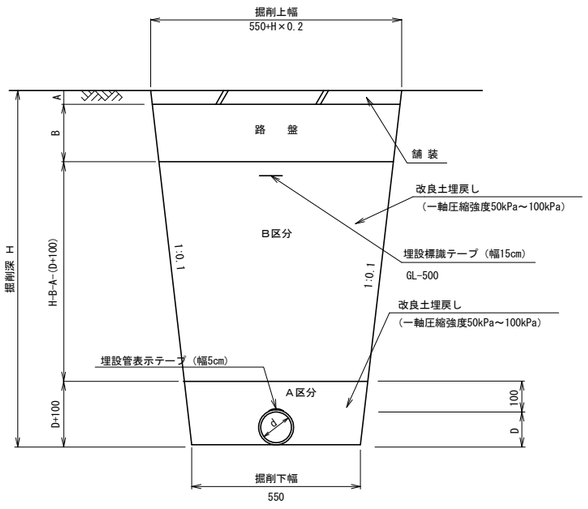
埋 戻 工

S=1:20

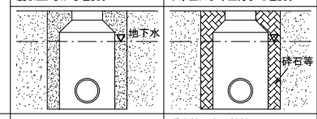
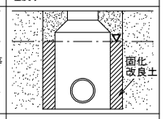
Ｈ＝１．５ｍ超え（土留工）



Ｈ＝１．５ｍ以下（素掘り）



液状化対策の例

埋戻し方法	① 埋戻し土の締固め	② 砕石等による埋戻し	③ 埋戻し土の固化
概要図	良質土で締固め(締固め度90%程度以上)ながら埋戻す	透水性の高い材料(砕石等)で地下水位により上方まで埋戻す	地下水位以深を固化改良土等で埋戻す
			
埋戻し材料	良質な砂又は埋戻しに適した現地発生土	透水性の高い材料（例えば、10%通過粒径(D_{10})が1mm以上の砕石又は排水効果の確認されている材料）	現地発生土又は購入土に固化材を混ぜた改良土
特徴等	十分な締固めを行うことにより、埋戻し部の過剰間隙水圧を小さくすることができるため、液状化に対する効果は大きい	マンホール・管路近傍部の過剰間隙水圧が消散するため、液状化に対する効果は大きい	埋戻し部が非液状化層となるため、液状化に対する効果は大きい

本町では、施工性及び経済性より、③埋戻し土の固化を標準としているが、現場状況に応じて検討を行い、町の下水道担当部署と協議を行うことを原則とする。

工事名	令和 年度		
(路線名)			
箇 所			
図 名	取付管土工標準図		
縮 尺	図 示	位 置	
設計者		課 長	
宮城県亘理町		図面番号	

舗装復旧標準図

S=1:40

県道（車道部）

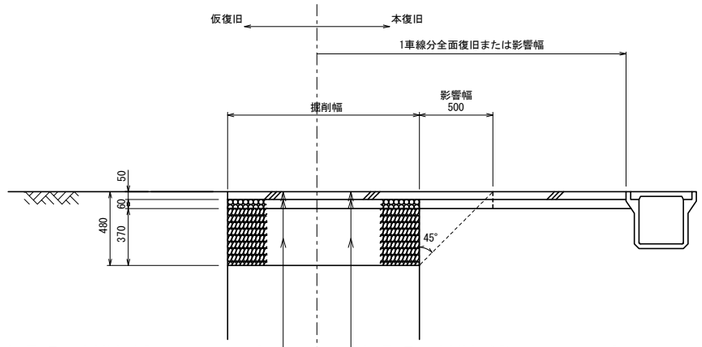


表　層　工（再生密粒度As20F）	t= 5cm
上層路盤工（再生歴青安定処理路盤材）	t= 6cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=37cm

表　層　工（再生密粒度As20F）	t= 5cm
上層路盤工（再生歴青安定処理路盤材）	t= 6cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=37cm

県道（歩道部）

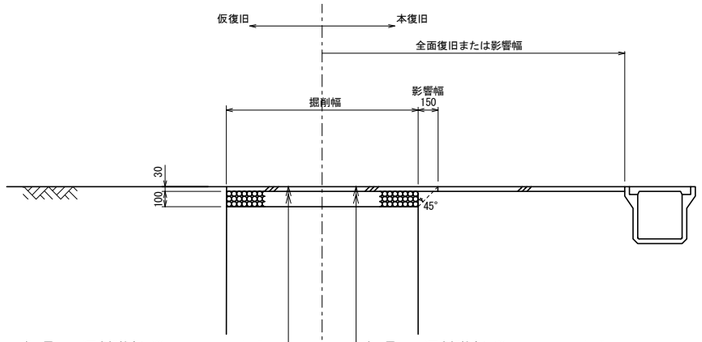


表　層　工（再生細粒度As13）	t= 3cm
路　盤　工（再生クラッシャーランRC-40）	t=10cm

表　層　工（再生細粒度As13）	t= 3cm
路　盤　工（再生クラッシャーランRC-40）	t=10cm

町道Ⅰ（車道部）

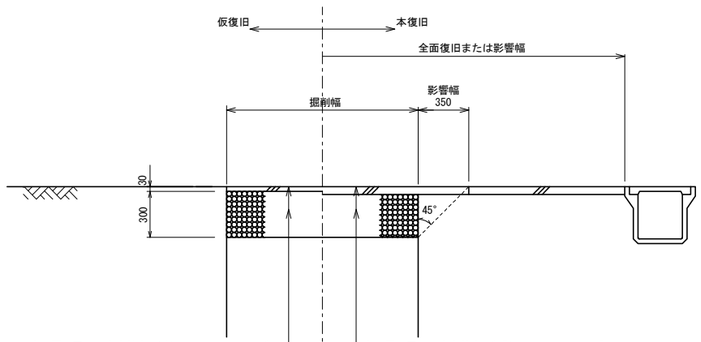


表　層　工（再生密粒度As13）	t= 3cm
路　盤　工（再生クラッシャーランRC-40）	t=30cm

表　層　工（再生密粒度As20F）	t= 5cm
路　盤　工（再生クラッシャーランRC-40）	t=28cm

町道Ⅱ（車道部）

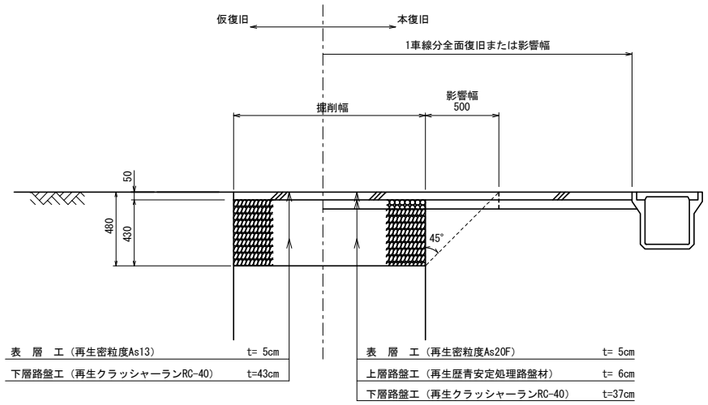


表　層　工（再生密粒度As13）	t= 5cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=43cm

表　層　工（再生密粒度As20F）	t= 5cm
上層路盤工（再生歴青安定処理路盤材）	t= 6cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=37cm

町道（歩道部）

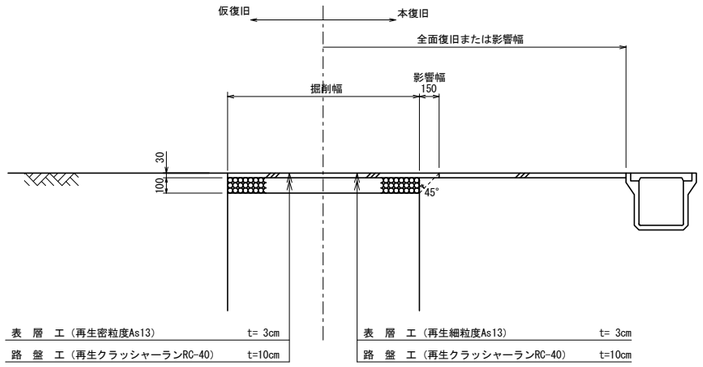
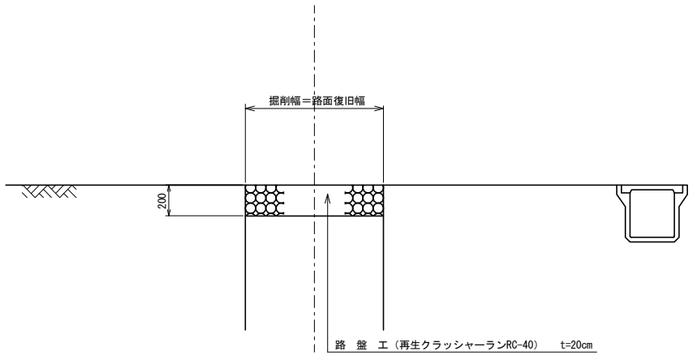


表　層　工（再生密粒度As13）	t= 3cm
路　盤　工（再生クラッシャーランRC-40）	t=10cm

表　層　工（再生細粒度As13）	t= 3cm
路　盤　工（再生クラッシャーランRC-40）	t=10cm

町道（砂利道）



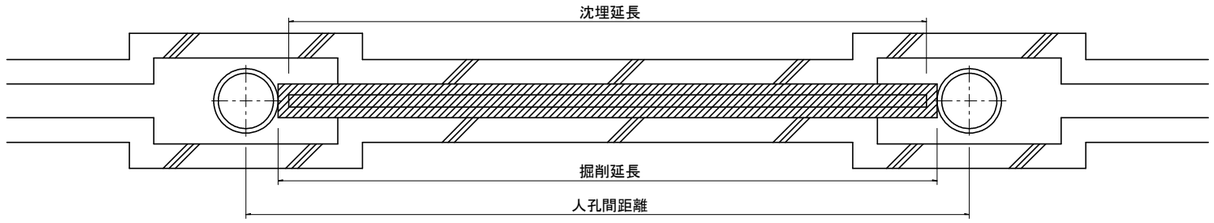
路　盤　工（再生クラッシャーランRC-40）	t=20cm

工事名（路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	舗装復旧標準図		
縮　尺	S=1:40	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

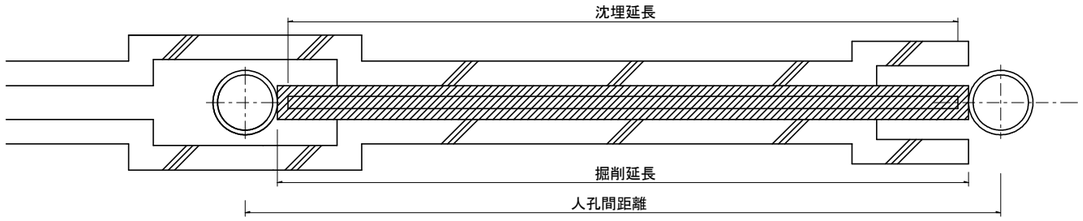
沈埋管路部土工標準図

S=1:100

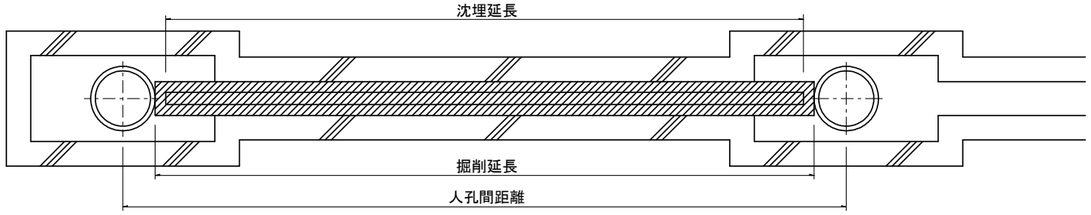
Ａタイプ：標準の場合



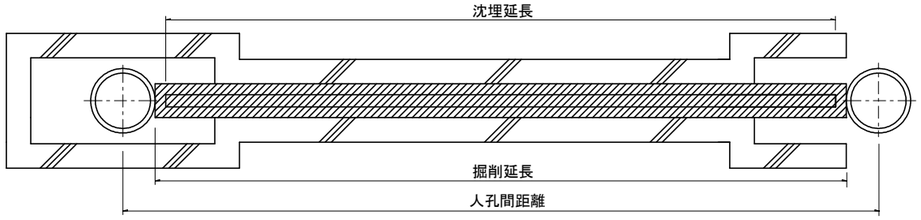
Ｂタイプ：既設人孔に取り付ける場合



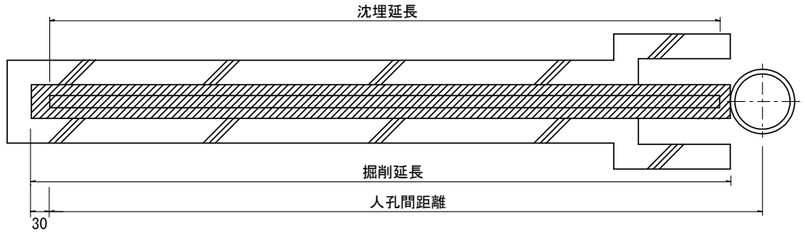
Ｃタイプ：始終点の場合



Ｄタイプ：既設人孔から終点の場合



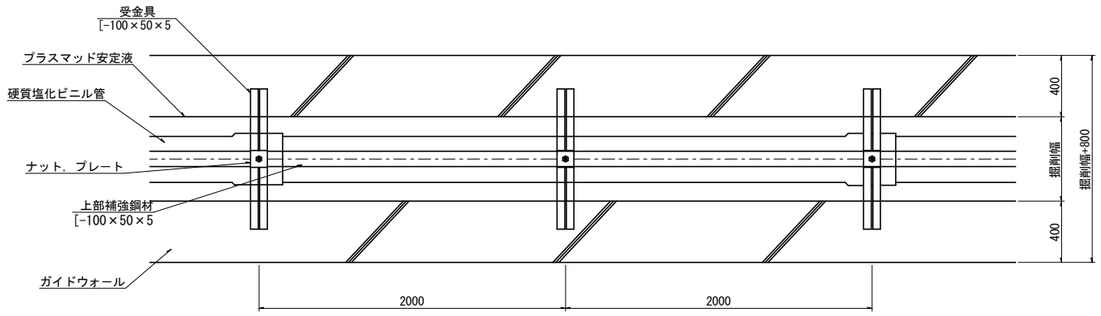
Ｅタイプ：既設人孔から管止めの場合



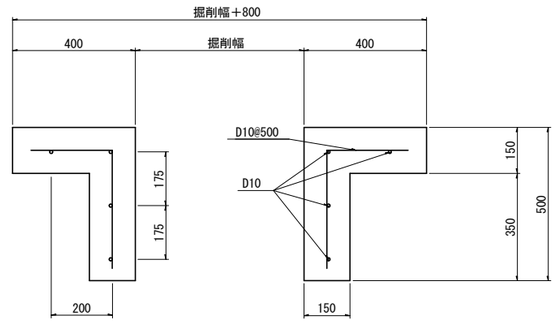
工事名（路線名）	令和　　年度		
箇所			
図名	沈埋管路部土工標準図		
縮尺	S=1:100	位置	
設計者		課長	
宮城県亘理町		図面番号	

管路部施工標準図

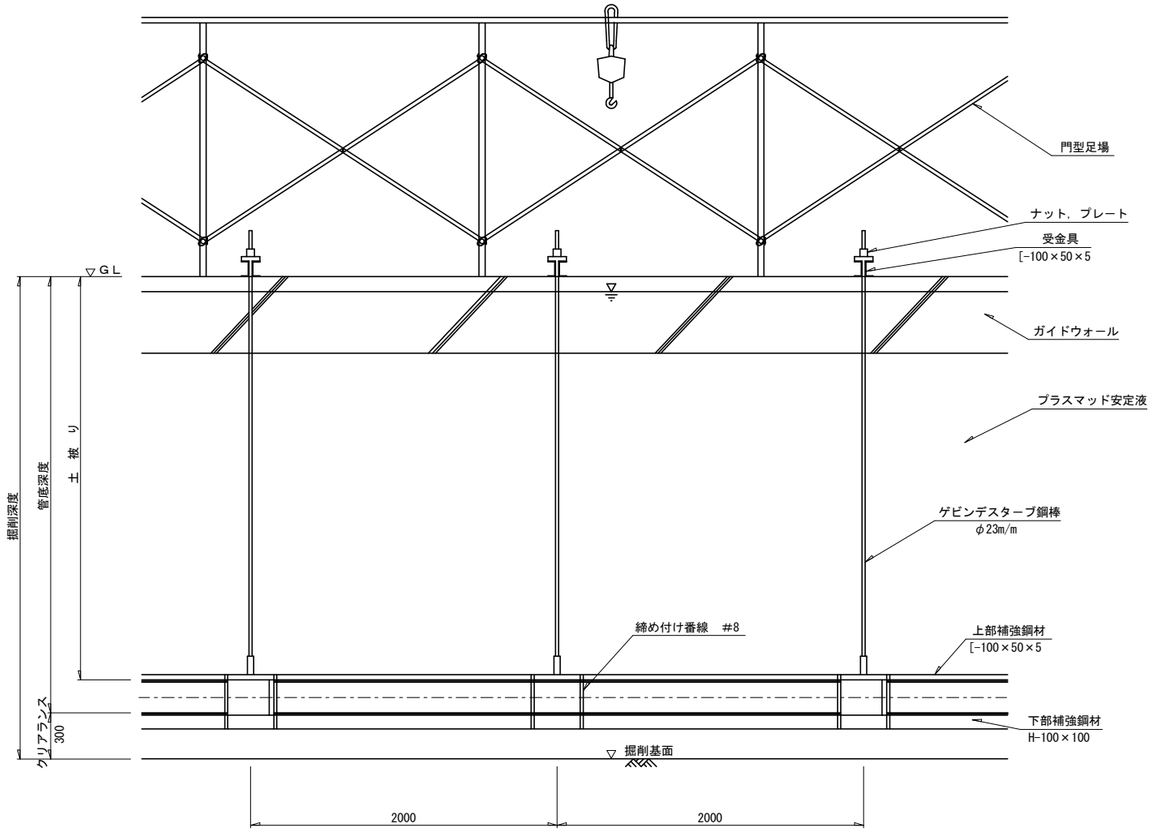
平 面 図 S=1:40



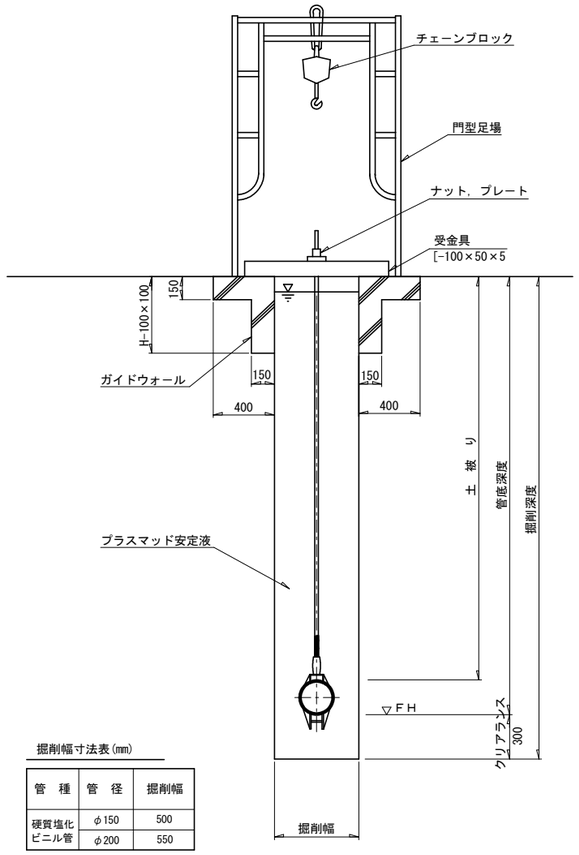
ガイドウォール詳細図 S=1:20



縦 断 面 図 S=1:40



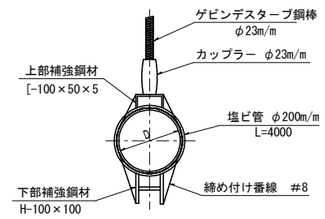
横 断 面 図 S=1:40



掘削幅寸法表(mm)

管 種	管 径	掘削幅
硬質塩化ビニル管	φ150	500
	φ200	550

管部詳細図 S=1:20



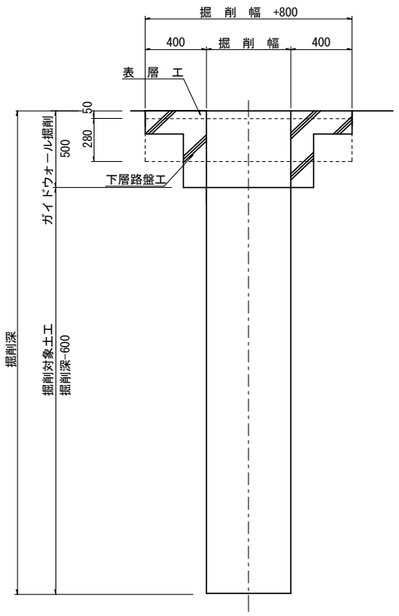
工 事 名 (路線名)	令和 年度		
箇 所			
図 名	管路部施工標準図		
縮 尺	図 示	位 置	
設 計 者		課 長	
宮城県亘理町		図面番号	

管路部土工・復旧標準図

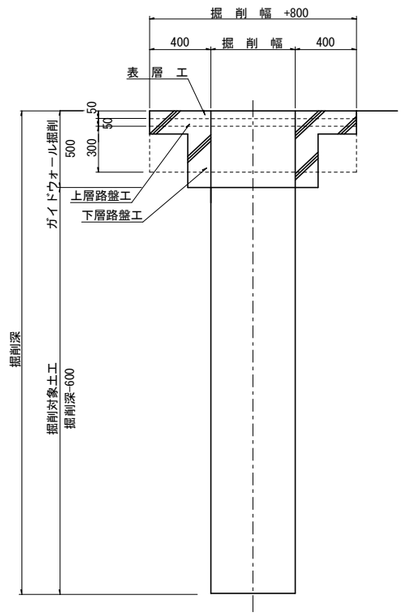
S=1:40

本管土工標準図

町　道　Ⅰ

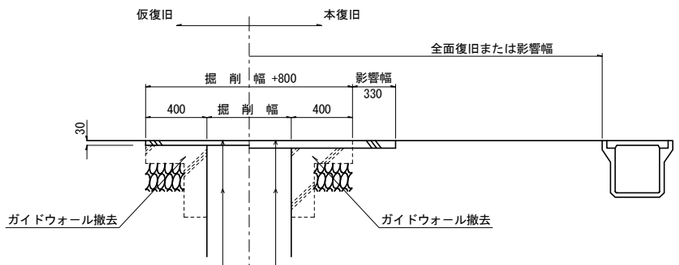


町　道　Ⅱ



本管復旧標準図

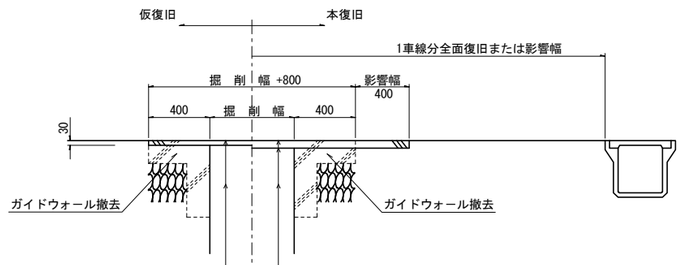
町　道　Ⅰ



表層工（再生密粒度As13）	t= 3cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=30cm

表層工（再生密粒度As20F）	t= 5cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=28cm

町　道　Ⅱ



表層工（再生密粒度As13）	t= 3cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=45cm

表層工（再生密粒度As20F）	t= 5cm
上層路盤工（再生瀝青安定処理路盤材）	t= 6cm
下層路盤工（再生クラッシャーランRC-40）	t=37cm

掘削幅寸法表(mm)

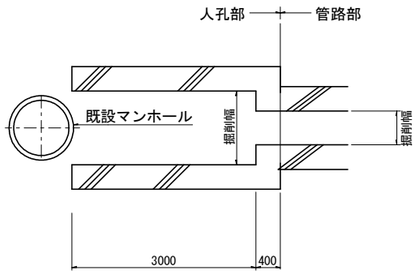
管　種	管　径	掘削幅
硬質塩化ビニル管	φ150	500
	φ200	550

工事名（路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	管路部土工・復旧標準図		
縮　尺	S=1:40	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

人孔部土工標準平面図

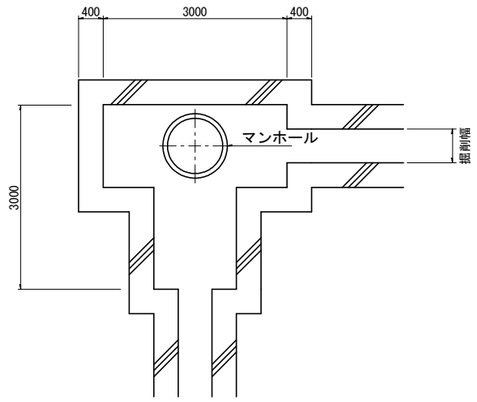
S=1:100

既設マンホール部

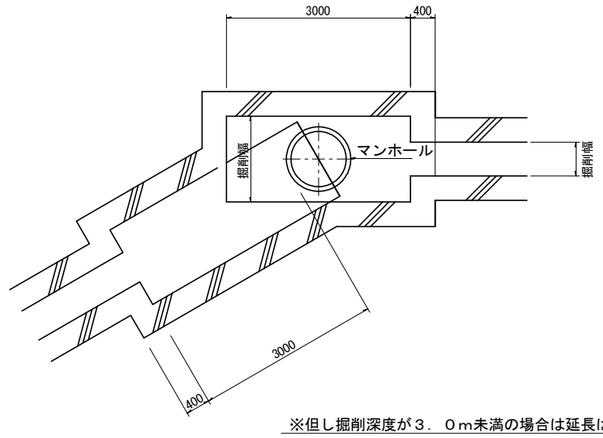


※但し掘削深度が３．０ｍ未満の場合は延長は２．０ｍとする。

直角の場合

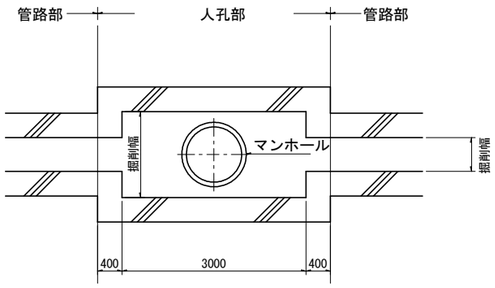


曲路の場合

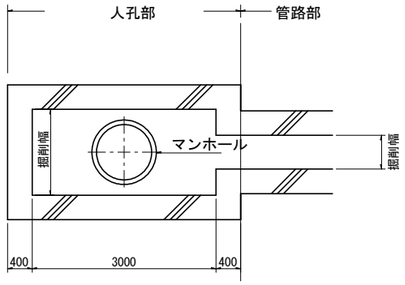


※但し掘削深度が３．０ｍ未満の場合は延長は２．０ｍとする。

新設通常の場合



新設始終点の場合

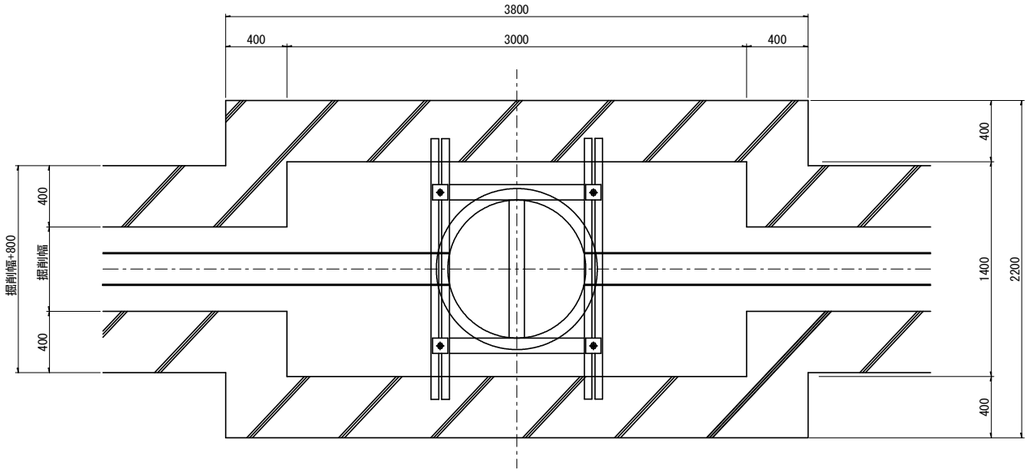


工事名 （路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	人孔部土工標準平面図		
縮　尺	S=1:100	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

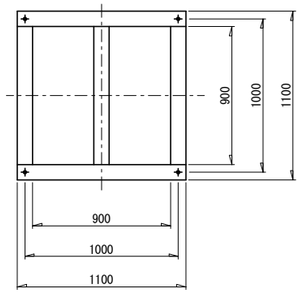
１号人孔施工標準図

S=1:40

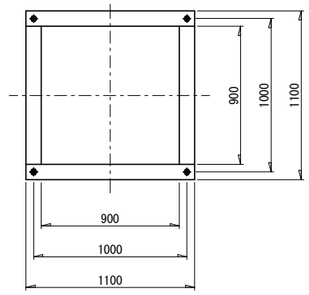
立坑平面図



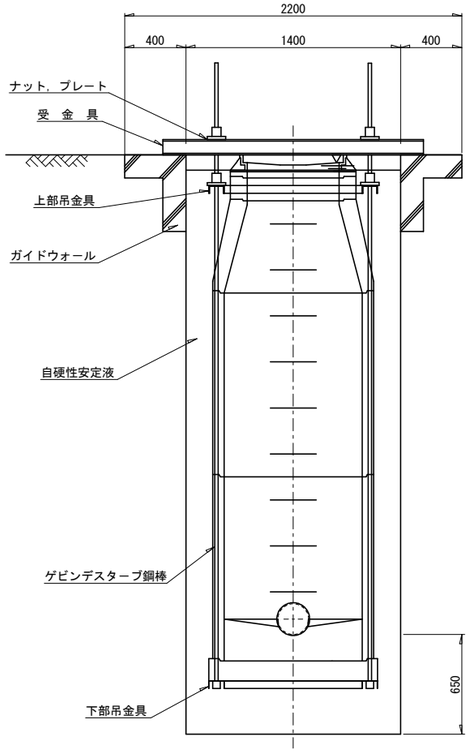
上部吊金具



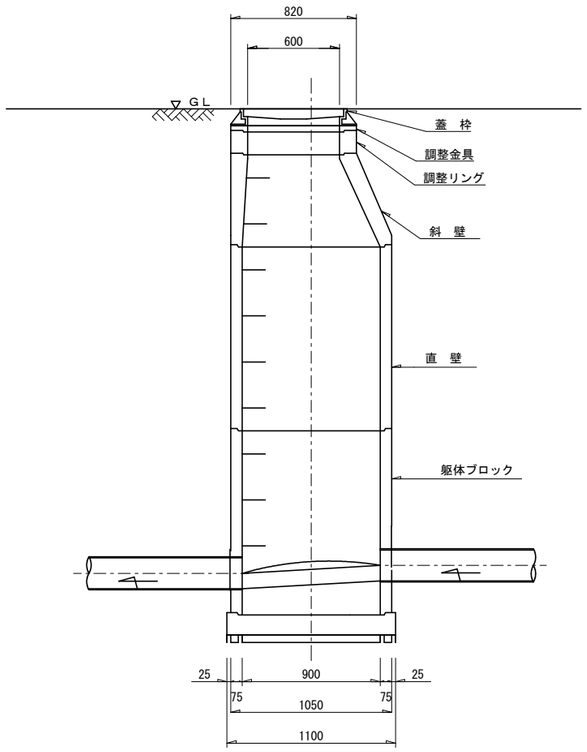
下部吊金具



沈埋状況図



人孔断面図

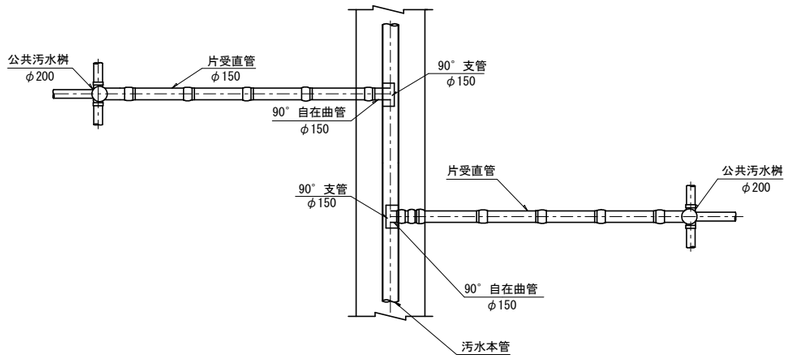


工事名（路線名）	令和　　年度		
箇　所			
図　名	１号人孔施工標準図		
縮　尺	S=1:40	位　置	
設計者		課　長	
宮城県亘理町		図面番号	

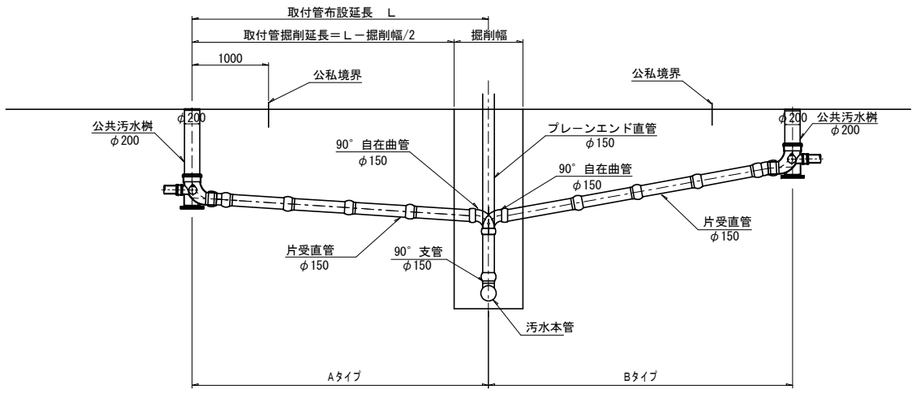
取付管標準構造図

S=1:80

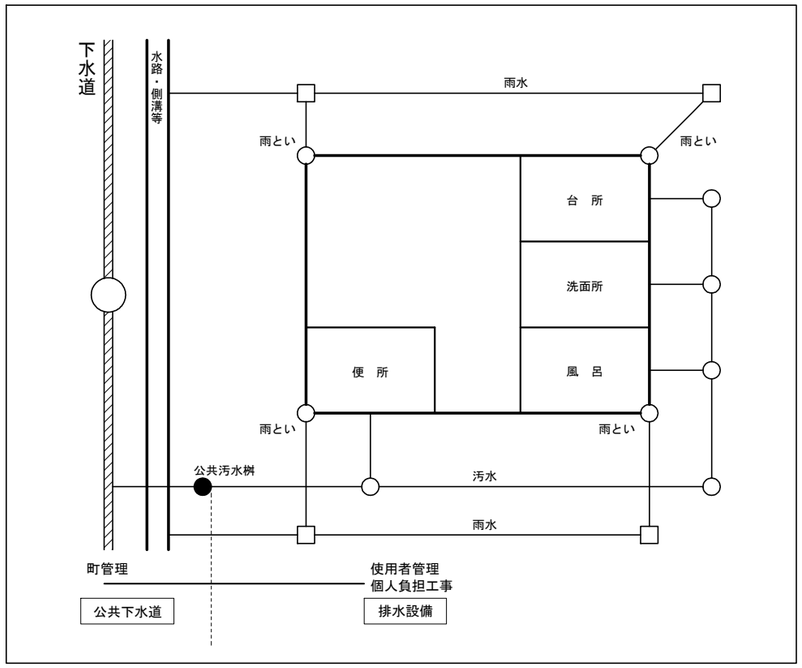
平 面 図



断 面 図



宅内排水設備平面図

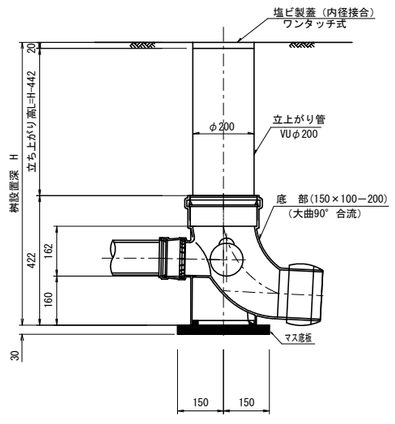


特記１：宅内排水設備の設置・構造は、『下水道施設計画・設計指針と解説（（公社）日本下水協会）』、
『下水道排水設備指針と解説（（公社）日本下水道協会』および『亘理町下水道条例施行規則』の最新版に準拠する。
特記２：汚水ますは原則として2cm程度の落差を設ける。
特記３：便所からの排水管は、排水主管のますに鋭角に合流するように接続し、必要に応じて段差を設け主管側への汚物等の逆流を防止する。
特記４：宅内排水設備（汚水）の最小土被りは20cmとする。
特記５：宅内排水設備（汚水）管径は内径100mmを原則とする。
特記６：宅内排水設備（汚水）勾配は20‰を原則とする。
特記７：宅内排水設備ます（汚水）は、排水管の延長が、その管径の120倍を超えない範囲内において排水管の維持管理上適切な箇所に設置する。
（排水管径が100mmの場合は、『100mm×120＝12,000mm＝12m』となる。）
特記８：雨水ますの底部には、深さ15cm以上の泥だめを設ける。
特記９：上記により難い場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

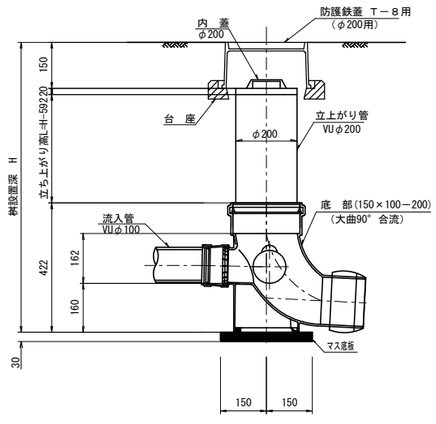
汚水桝標準構造図

S=1:20

宅 内 部

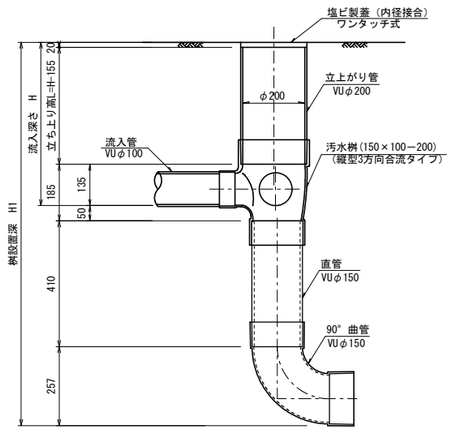


車 道 部

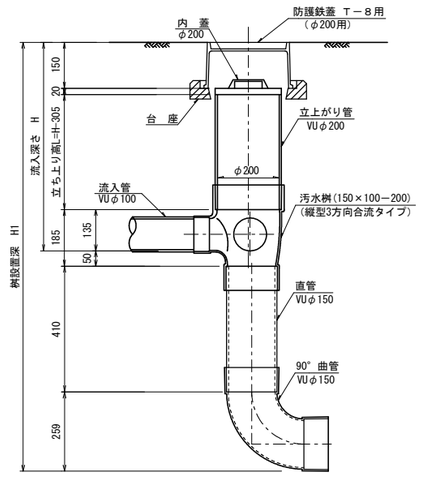


※ 現場状況に応じ、公共汚水桝の横型と縦型を適切に選定する。
※ 亘理町指定の蓋を設置する。
※ 疑義が生じた場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

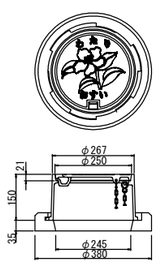
宅 内 部



車 道 部



防護鉄蓋



塩ビ製蓋

工事名 (路線名)	令和 年度		
箇 所			
図 名	取付管標準構造図・汚水桝標準構造図		
縮 尺	図 示	位 置	
設計者		課 長	
宮城県亘理町		図面番号	